

あとがき

昭和五十二年五月に、今は亡き橋本省三豊岡市長から故石田松蔵・小谷茂夫の二氏と私が豊岡市史編さんを委嘱され、編集委員会を組織して故石田松蔵氏が編集委員長に、小谷茂夫氏が編集主任となり、京町にある豊岡市立郷土資料館の一階東北角の一室に豊岡市史編集室を開設し、豊岡市史編さんの大事業に取組むこととなつてから早くもやがて満一〇年。昭和五十五年三月に石田松蔵氏が病歿されたあと、陣容をととのえて昭和五十六年三月に『豊岡市史』上巻の発刊にこぎつけてのち、明治維新以降現代に至る通史編を内容とする『豊岡市史』下巻の編集に鋭意従事すること満六年、ここに漸く本書の発刊の運びとなりました。

『目で見る豊岡の文化史』（昭和四十年）・『目で見る豊岡の明治一〇〇年史』（昭和四十四年）・『目で見る豊岡の文化財』（昭和五十三年）を編集執筆された故石田松蔵氏が存命ならば当然、本書の編集執筆も同氏が中心となつてすぐれた市史としてまとめられたはずでありましたが、同氏亡きあとの事態に対処して新たに編成されたスタッフの手により本書が誕生することとなつたわけで、待望の本書の出来栄えについては果たして故石田松蔵氏の旧著をはじめとする先学の成果を正しく発展させ、乗越えることができたかどうかを深く憂えるとともに、他面においてまたそれなりの新味が本書の随所に発揮されることになつたとも言えると考えております。

本書の関係資料の収集や関係原稿の整理編集作業の中心となって苦勞した小谷茂夫主任の感想によれば、明治維新期については『豊岡藩資料』『豊岡県史料』をはじめ『鳥井家公私之日記』『田中家御用留』など比較的豊富な資料が存在し、『豊田町文書』により豊田町開発の経緯が大きく解明されるなどの成果も得られたが、明治九年に豊岡県が兵庫県に分割編入されて以後の時期の資料不足に悩まされ、役所が大きくなって中央支配が進むに伴って文書類もまた県庁に集中管理され、結局は戦災で焼失してしまうという痛恨の運命を辿ったことを思い知らされるとともに、『兵庫県統計書』が貴重な資料となったが、戦中戦後の混乱期の資料不足は覆うべくもなく、神美村の分村合併地区の統計数字の抽出もはや不能であるため、豊岡市全域の集計数字が空白のままとなった部分もあることなどを述懐しています。心残りのことは際限がないが、これを補って多くの方々に資料や写真の提供など数えきれぬご協力を得、また特に執筆委員のみなさんにはそれぞれの分担をまとめるのに筆紙に尽せぬ骨折りを頂いたおかげで本書ができたことを心から感謝します。

『豊岡市史』下巻の編集委員・執筆委員の顔ぶれと執筆分担は別表のとおりです。

豊岡の地元のメンバーを中心に、上巻以来引続きの前嶋雅光委員に、日本近代史専攻の伊藤之雄委員が加わり、執筆委員のだれもが多忙な本務のある中を、それぞれの分担部分につき献身的に精魂をこめた力作の原稿をまとめていただきましたが、予定枚数を超過した部分も少くなく、紙幅の関係や出版予定日に迫られて編集整理には大変苦勞いたしました。編集業務は上巻に引続き梅谷光信・小谷茂夫・山口久喜の三名の責任で担当しましたが、特に小谷・山口両氏には執筆と併せて極めて過重の負担がかかりました。本書の膨大な内容の

すみずみにまで十分な注意が行届いていないおそれを憂えておりますが、なにとぞご理解とご寛恕をお願い申し上げます。

ともあれ、ここに堂々たる『豊岡市史』上下二巻の完成を見るに至りましたことは、ひとえに関係各方面のみなさまの熱烈なご支援とご協力の賜ものであり、あらためて心から感謝の意を表します。今後さらに引続いて、『資料編』の編さんや、継続的な史料の収集・整理・保存などの残された課題が着々と達成されることを期待するとともに、本書が広く愛読され、郷土の生いたちを正しく理解し、未来へはばたく市民の心の糧の一助となるならば望外の喜びであります。

本書はもとより完璧を期し得ず、幾多の未熟な点が見られると思いますが、なにとぞ忌憚のないご叱正とご教示を賜わりますようお願い申し上げます。

最後に、『上巻』以来、すぐれた技術と誠意をもって印刷にあたられた日本写真印刷株式会社に深甚なる感謝を申し上げます。

昭和六十二年三月

豊岡市史編集委員会

委員長 梅谷光信

豊岡市史（下巻）編集委員会名簿及び執筆分担一覧

氏名 分担

梅谷光信 I四②、II五⑤、III一①②

小谷茂夫 I四①①④、II五⑤、III一①②、III二①③、
III三①②、III四①⑤、III九

井上義次 I三①②、II一②、II五①③、III五①

伊藤之雄 II二①、II三①④、II四①⑥

岡弘 I六③④、II六①②、II七⑥、III五②

中尾健二 I三④、II五④、III四⑥、編外②

萩原一郎 I五①⑥、I六⑥、II七①⑤、III六①③、III七①

前嶋雅光 I一①④、I二①⑤

山口久喜 I三③、I六①②⑤⑦⑧、II一①、II二③③、II七⑦
III六④、III七②③、III八①④
編外①、付録（年表）、行政区変遷表

注 Iは第一編、一は第一章、①は第一節をあらわす。

豊岡市史担当事務局（担当順）

企画課 課長 友田英弥・大和 理・松本 一・原田 寛

課長補佐 松島一夫・吉田宗玄 担当主事 中田正夫・矢崎章司・田中茂樹

嘱託 加芝輝子・隆辻幸枝

現（前）職

市史編集委員長、弁護士
豊岡市文化財審議委員会委員長
但馬史研究会会長

豊岡市史編集主任
豊岡市文化財審議委員

元県立豊岡実業高等学校教諭

京都大学日本史研究室員

元県立香住高等学校教諭

県立香住高等学校教諭

前城崎町教育長

前兵庫県史担当参事
親和女子大学教授

県立豊岡高等学校教諭
豊岡市文化財審議委員

豊岡市史年表（明治から現在まで）

西 暦	日本年代	記 事
1868	明治 元	<p>1月20日、山陰道鎮撫総督軍分遣隊久美浜町に入り、久美浜代官所を撤し、官軍陣營（2月初旬から官軍出張所）に改む。</p> <p>1月27日、山陰道鎮撫総督西園寺公望、久美浜町を経て豊岡町に入る。由利三左衛門宅を本陣にあてる。</p> <p>2月、豊岡町で“ええじゃないか”乱舞あり。</p> <p>4月、豊岡藩に新に議事役を置き、猪子左家太を年寄上席兼御側役、舟木克己を御側中老役、岩崎豊太夫を大目付とし、岩崎を貢士として上京させる。</p> <p>閏4月、京極領を豊岡藩と称し、二方郡私領分も管轄下に入れる。</p> <p>5月28日、久美浜官軍出張所が久美浜県となり、伊王野次郎左衛門が権知事となる。</p> <p>10月、久美浜県に商法会所設立、各地に商法御用掛を置く。</p> <p>11月、軍艦撰津丸、津居山入港、修理。</p>
1869	" 2	<p>2月、豊岡藩執政に猪子左家太を任じ、議政・施令・文武・民政（司民）の4局を置き、新に司計局を加える。</p> <p>3月21日、興国寺を廃寺とし稽古堂を移す（鳥井）。</p> <p>6月20日、出石藩主仙石久利版籍奉還、藩知事に任ずる。</p> <p>6月21日、豊岡藩主京極高厚版籍奉還、藩知事に任ずる。</p> <p>8月10日、久美浜県を分割、生野県を新設。</p> <p>12月29日、豊岡藩、議政・施令2局を廃して政事堂を置く。</p> <p>12月、小出知行地（倉見・長谷）が久美浜県に属す。</p>
1870	" 3	<p>1月、久美浜県、大庄屋・中庄屋を大郷長・中郷長と改称（田中御用留）。</p> <p>2月、米価騰貴、米1石当たり銀1貫500匁。</p> <p>4月、円山川氾濫、豊岡藩総高1万5800石のうち6400石を失うという。藩主ら葬祭を神式に改め、瑞泰寺を廃する。</p> <p>5月5日、久美浜県庁舎（後に改置豊岡県庁舎）建立。</p> <p>5月8日、神仏混淆を禁止。</p> <p>5月23日、豊岡町の名主・組頭を廃して、新たに中市長・小市長・議事下院を置く。</p> <p>6月8日、稽古堂跡に女学校、7月18日、立正寺に小学校（郷学）を藩が開設、4年廃藩により閉校。</p> <p>10月9日、生野県知事井田五蔵、久美浜県知事に任ずる。</p>

年 表

1871	(明治) 4	<p>10月12日、藩内大庄屋を大郷長・出役庄屋を中郷長・村々庄屋を小郷長に改める（豊岡藩庁日誌）。</p> <p>12月19日、小松彰、久美浜県権知事に任ずる。</p> <p>7月14日、廃藩置県。豊岡藩は豊岡県となる。医局を小田井に開設。</p> <p>8月29日、旧豊岡藩知事京極高厚、豊岡を去り東京に居住。</p> <p>11月12日、旧豊岡県を廃し、三丹にまたがる改置豊岡県を置く。医局を舟木老之助邸に移し、豊岡県医局と呼ぶ。</p> <p>12月17日、県庁舎を藩政事堂跡に置く。県権令小松彰・権参事田中光儀。</p>
1872	" 5	<p>3月、豊岡県「地券渡方規則」布達。</p> <p>3月、県権令小松彰、県令に昇進。</p> <p>4月、旧城山に神武天皇遙拜所を設け、以後「神武山」と呼ぶ。</p> <p>6月15日、旧興国寺焼亡。</p> <p>6月、豊岡県を21大区・117小区に分け、大区に区長・副区長及び小区に戸長・副戸長を置く。</p> <p>7月1日、豊岡に三等郵便役所設立。</p> <p>10月、豊岡県に陸運会社設立。</p> <p>10月2日、県令小松彰、転任。後任に林茂平権令。</p> <p>11月28日、林権令転出。</p>
1873	" 6	<p>この年、豊岡県は勸業所に弘商元会所を置く。</p> <p>この年、旧豊岡藩郭内の一角を開き、豊田町をつくる。</p> <p>年暦改正、12月3日をもって明治6年1月1日とする。</p> <p>2月、断髪令、宵田町から始める（鳥井）。</p> <p>2月5日、桂久武、県権令に発令されたが着任せず、以後2年間参事田中光儀が県政を担当。</p> <p>2月17日、来迎寺を仮校舎として豊岡小学校を開く。</p> <p>4月29日、豊岡小学校、光行寺に移る。</p> <p>4月、豊岡生糸改会社設立。</p> <p>この年、県医局を豊岡県病院と改称、神武山麓に新築移転。</p> <p>この年、宝林社創立。後に宝林銀行に改組。</p> <p>この年、豊岡県に監獄を設置、旧興国寺跡を懲役場とする。</p>
1874	" 7	<p>1月、豊岡県内陸運会社統合、社長奥田勘三郎。</p> <p>4月1日、本町に豊岡教員伝習所設置。</p> <p>10月13日、最初の徴兵検査を光行寺で実施。</p> <p>12月、生糸改会社副社長に奥田勘三郎が就任。</p>
1875	" 8	<p>4月1日、豊岡県の陸運会社は解散、内国通運会社となる。</p> <p>6月11日、豊岡教員伝習所を豊岡県師範学校と改称。</p>

1876	(明治) 9	<p>7月20日、豊岡県参事田中光儀免官(田中御用留)。 8月23日、鳥取県権令三吉周亮、豊岡県権令に任ぜらる。 9月1日、豊岡小学校校舎を現位置に建設。 この年、豊岡県警察掛を設置(7年とも)。 この年、京口橋を架ける。円山川下流で初の架橋。 この年と9年、豊岡県(9年8月から兵庫県)で地租改正作業。 3月12日、豊岡県聴訟課廃止、豊岡県裁判所設置。 8月21日、豊岡県を廃し、丹後国及び丹波国天田郡を除いて兵庫県に合併。豊岡県病院は兵庫県豊岡病院と改称。 9月、豊岡県庁跡に、兵庫県豊岡支庁を置く。 9月18日、兵庫県裁判所豊岡支庁を置く。10月、豊岡区裁判所と改称。 9月30日、豊岡県警察掛を兵庫県警保分局と改め、但馬一円を総括。 9月、政府は秩禄制度を全廃。 この年、解禁後始めて豊岡でカトリック教の説教行なわれる。 同時に、神戸のピリオン師来豊、初の白人来訪(豊岡カトリック教会史手稿。以下「教会史」)。</p>
1877	" 10	<p>2月、兵庫県警保分局を豊岡警察署と改称(兵庫県警察史)。 6月21日、豊岡師範学校を神戸師範学校に合併。 この年、兵庫県豊岡病院を但馬8郡の経営に移し、公立豊岡病院と改称。池田草庵、診察を受ける。 この年、本町に宝林義塾(塾長島村賛)を置く。</p>
1878	" 11	<p>1月19日、瀧田清兵衛、新栄社を開く。後に新栄銀行となる。 9月24日、出石第55国立銀行創立(昭和3年1月、但馬銀行に合併)。 10月、旧師範学校跡に但馬国8郡立豊岡中学校を創立。</p>
1879	" 12	<p>1月、大小区制廃止。従来の郡・町村の名称復活。 8月、各町村に町村会開設。 この年、城崎・美含郡役所を豊岡町本町に、出石・気多郡役所を出石町内町に置く。また、豊岡町戸長役場を寺町に、各地にも、それぞれ寄合戸長役場を設置。</p>
1880	" 13	<p>3月1日、城崎・美含両郡豊岡教員伝習所開設。 7月1日、地方制度改正、数ヶ村連合戸長役場制となる。戸長は民選。旧豊岡・出石・村岡3藩士族が拓産社を設立。</p>
1881	" 14	<p>10月10日、豊岡区裁判所が豊岡始審裁判所・豊岡治安裁判所となる。12月、豊岡始審裁判所廃止。11月、検事を置く。 11月20日、豊岡電信分局を竹屋町に設置。</p>

年 表

1882	(明治)15	<p>この年、豊岡病院が1町25ヶ村組合立となる。</p> <p>この年、旧豊岡藩士族授産事業として豊盛社が養蚕を始める(明治16年地方巡察使復命書)。</p> <p>4月3日、但馬自由党結成を協議。</p> <p>6月7日、豊岡小学校新校舎建設。</p> <p>この年、旧豊岡藩士族木下弥八郎ら、北海道に移住。</p> <p>この年、旧豊岡藩士族が開成社を結成、鮭の養殖と漁獲を始める(鮭漁沿革誌)。</p>
1883	" 16	<p>1月、神戸始審裁判所豊岡支庁及び同検事局豊岡支庁設置。</p> <p>3月、拓産社が気多郡久斗村の県営模範製糸工場の払下げを受ける。</p> <p>3月24日、平尾会社を創立。</p> <p>6月1日、地方制度改正。城崎郡豊岡・上・東・西・下、出石郡安良、気多郡加陽・府中など各組役場となる。</p> <p>11月3日、城崎郡円山川沿川漁者同盟発足。</p>
1884	" 17	<p>5月、地方制度改正。「○○村外○ヶ村戸長役場」となり、戸長は官選となる。戸長役場は豊岡寺町外15ヶ町村戸長役場となる。</p>
1885	" 18	<p>3月31日、資金難により但馬国8郡立豊岡中学校廃校。</p> <p>7月、洪水。豊岡小学校の一棟及び小田井小学校を流失。小田井小学校を廃し、豊岡小学校に合併。</p> <p>8月14日、豊岡町出身・堀田瑞松「堀田さび止塗料及び其塗法」の専売特許を受ける(わが国の専売特許第1号)。</p> <p>9月、城崎郡教育会創設(このころ各郡とも教育会創設)。</p>
1886	" 19	<p>1月、豊岡小学校を会場として、城崎郡勸業会を開催。</p> <p>8月13日、監獄は豊岡監獄署と改称。</p>
1887	" 20	<p>4月1日、小学校令改正。豊岡小学校は尋常・高等・簡易3校(村部の各小学校は、すべて簡易小学校)が併立。</p> <p>9月29日、豊岡銀行創立。</p> <p>この年、豊岡寺町他15ヶ町村戸長役場管下に立野村を加える。郡費の補助を得て、南新屋敷町を拓く。</p>
1888	" 21	<p>4月10日、円山川土功会設立。</p> <p>6月15日、豊岡電信分局は二等電信局となる。</p> <p>9月、宵田橋詰に豊岡警察署を新築。</p> <p>この年、ルラーブ師が豊岡にカトリック講義所開設(教会史)。</p>
1889	" 22	<p>4月、町村制実施。豊岡町は町役場を寺町に置く。八条・三江・田鶴野・五荘・新田・中筋・奈佐・港・神美・国府各村が生まれる。</p>

			この年、円山川及び出石川治水に関する測量費連合会発足。
			この年、南条信次郎（豊岡）初のカトリック教伝道士となり自宅を仮聖堂とする（教会史）。
			この年、町村制施行の結果、豊岡病院を1町5ヶ村一部事務組合立に移す。8月、神美村の内、11地区が加入。
1890	(明治)23		5月9日、豊岡町役場庁舎を寺町に建設。 11月1日、神戸始審裁判所豊岡支庁を豊岡区裁判所・神戸地方裁判所豊岡支部と改称。 11月、国税事務を城崎郡役所から豊岡直税間税分署（26年12月豊岡収税所と改称）に移管。
1891	"	24	この年から25年まで、出石・気多・城崎3郡の地主ら、国に対して地租修正をしきりに陳情。 3月31日、豊岡小学校は併設の簡易小学校を廃止（各簡易小学校とも25年3月までに廃止。尋常小学校となる）。
			この年、豊岡町始めて消防夫を置く。
1892	"	25	4月、港村漁業組合設立。 10月、田鶴野村山本の愛宕山に警鐘設置。
			この年、豊岡町外5ヶ村円山川堰普通水利組合（蓼川用水）を設置。
1893	"	26	1月11日、豊岡消防組認可。 3月、豊岡町は公立豊岡病院組合からの脱退を議決、後に復帰（明治26年豊岡町予算書）。 6月20日、播但鉄道会社設立認可。 7月1日、商法（銀行条令）施行に当たり宝林舎を宝林銀行に改組。 9月30日、出石・気多郡役所から気多郡分離し、城崎・美含・気多郡役所に改編。 11月、後の城崎・出石郡治水町村組合発足（円山川治水沿革誌）。
			12月11日、兵庫県収税部豊岡出張所を豊岡収税所と改称。
1894	"	27	8月2日、日清戦争起こる。豊岡町の応召者、前後33人。 12月、豊岡町義金をつのり防寒衣1200余着を出征軍人に送る。城崎・美含2郡内で被召集人員陸軍264人・海軍24人・戦病死者28人（城崎郡役所事績録）。
1895	"	28	4月19日、日清講和条約の吉報。当日を休日とし全戸国旗を立てる。 7月7日～8日、豊岡町光行寺で、城崎・美含2郡真宗寺院による征清軍戦病死者追悼法会。

年 表

			12月、豊岡貯金銀行創立。
			12月、宝通銀行設立。38年12月に解散。
			この年、公立豊岡病院に奈佐村が加入。
1896	(明治)29		4月1日、郡制施行。城崎・気多・美含3郡が合併、新城崎郡となる。
			4月15日、佐川銀行創立。後、宝正銀行となる(神戸銀行史)。
			4月20日、南本町に兵庫県立豊岡尋常中学校創立。
			7月1日、城崎郡尚武会発足。
			7月1日、第1回郡会議員選挙。
			7月28日、港銀行設立。後に、港府銀行となる。
			11月11日、収税所を豊岡税務署と改称。
1897	"	30	3月13日、城崎・出石両郡町村(3町12村)治水組合発足。
			10月25日、宝林社を廃し、宝林銀行を創立(神戸銀行史)。
			11月16日、豊岡町出身の浜尾新、文部大臣となる。
1898	"	31	3月8日、私立豊岡幼稚園を本町に開く。
			4月1日、兵庫県管内気象観測所設置。
1899	"	32	この年、豊岡小学校校舎増築(工費7690円)。
1900	"	33	5月、私立豊岡幼稚園を町立に移す。
1901	"	34	2月、由利由人(三左衛門)、俳誌「木兎」を創刊。
			2月6日、城崎郡農会設立。
			11月2日、豊田町30年祭を挙行。
			この年、愛国婦人会城崎郡幹事部発足。
			このころ、三宅焼始まる(但馬のやきもの)。
1902	"	35	3月、豊岡町を14区に分け、区ごとに区長を置く。
			10月10日、播但鉄道を山陽鉄道株式会社に譲渡決定。
			この年、港村漁業組合解散。
1903	"	36	3月12日、新田村、新田堰水利組合設立。
			3月、豊岡郵便局特定三等局に昇格、竹屋町の電信局舎を合併して移転。
			3月、港浦漁業組合結成。4月、東港浦漁業組合結成。
			6月16日、豊岡町在郷軍人会、光行寺で発会式。10月、神美村在郷軍人会発足。
			9月21日、豊岡町出身の久保田讓、文部大臣となる。
			この年、豊岡監獄署は司法省神戸監獄豊岡分監となる。
1904	"	37	2月10日、日露戦争始まる。出征するもの豊岡町で前後128人。
			7月7日、私立窮淑女学校を光行寺寺中に開校。
1905	"	38	1月、瀬戸村。田久日村間に海藻採取紛争発生。
			9月、町章を制定(現行の市章にほぼ同じ)。

			9月13日、神武山上と保天恵座で日露講和反対但馬国民大会を開く。参集者2,000人(但馬新聞)。
1906	(明治)39		4月1日、播但線全線(飾磨一和田山)開通。
1907	" 40		4月3日、豊山焼(沢田焼・三坂焼)開窯(但馬のやきもの)。 5月7日、城崎郡公会堂落成(豊岡町永井)。
1908	" 41		6月21日、豊岡市街電話(市内)交換開始。 8月1日、豊岡特設電話(市外)交換開始。 9月、八条・国府・中筋・小坂・神美・新田6ヶ村で治水期成同盟会(後の円山川・出石川治水町村組合〔上組〕)発足。 12月、豊岡町および新田・三江・五荘・田鶴野4ヶ村で円山川治水調査会(後の城崎郡治水組合〔下組〕)発足。
1909	" 42		4月21日、本町に城崎郡立高等女学校創立。 7月10日、五荘村高屋地区内に山陰鉄道豊岡駅開設。 9月、道路新設にからんで豊岡町長・助役排斥運動起こる(但馬新聞)。 11月、税務署庁舎を小田井に設置(建物は現存)。
1910	" 43		7月24日、本町に豊岡電気株式会社創立(但馬新聞)。 12月、豊岡以北5ヶ町村、円山川治水組合を結成。
1911	" 44		5月14日、豊岡雄弁会設立。 7月30日、豊岡電気株式会社営業開始(但馬新聞)。 この年、但馬初の発動機付漁船「日進丸」、津居山村で建造。
1912	" 45 (大正 元)		3月21日、豊岡町および五荘・田鶴野・三江・新田4ヶ村をもって円山川治水組合設立。 5月22日、山陰線全線開通。6月1日、豊岡駅前「全線開通祝賀」のイルミネーション設置。 5月31日、大隈重信(明治31年及び大正3年~5年に首相)豊岡中学校で講演。 8月、豊岡商工会設置(豊岡案内)。 9月15日、気比で銅鑿4ヶ発掘される。 この年、玄武洞保勝会を設立。
1913	大正 2		11月、佐川銀行を宝正銀行に改組。
1914	" 3		10月5日、豊岡小学校校歌、文部省より認可。
1915	" 4		2月5日、豊岡立憲青年会創立。 3月、各町内青年会を統一、豊岡町青年会設立。 11月10日、御大典町民奉祝式を豊岡小学校校庭で挙る。
1916	" 5		10月、豊岡町にチフス・コレラ流行。氏神祭を11月12日に延期。
1917	" 6		11月、豊岡電気、両丹電気と合併、三丹電気と改称。 11月25日、円山川治水期成同盟会結成。津居山港改修を目標と

年 表

			する。
1918	(大正) 7		12月1日、神戸測候所豊岡出張所を山王山に設置。 3月29日、町立豊岡商業補習学校設立認可。 8月16日、豊岡町にも米騒動。 9月15日、洪水で市街地の大半浸水。 10月17日、豊岡町婦人会設立総会。 11月、スペイン風邪で9年までに豊岡町一帯で死者219名(豊岡警察沿革誌)。
1919	" 8		3月23日神美村森尾古墳から正始元年銘神獸鏡出土。 5月、宵田町一立野間の立野橋架設(豊岡誌)。
1920	" 9		1月、但丹歌人会結成、機関誌「狹矢」を刊行。昭和21年3月、「北雲」として復刊される。 7月、円山川改修の件、帝国議会で議決。 10月1日、豊岡町処女会発足。第1回国勢調査。 10月25日、「城崎郡民力涵養実行概目」公布。
1921	" 10		4月、但馬貯蓄銀行設立。 5月27日、上水道起工式を神武山上で挙行。 7月25日、豊岡町耕地整理組合が発足し、御陵通以北の区画整理始まる(豊岡町地区整理誌)。
1922	" 11		1月6日、豊岡小学校鉄筋3階建校舎完成(但馬初の鉄筋建物)。 2月、三丹電気が帝国電燈株式会社に吸収される。 4月、郡制廃止によって城崎郡立高等女学校は県立豊岡高等女学校となる。 5月11日、上水道竣工。中江種造の寄付(38万5000円)による。 5月、円山川改修工事着工・立野に工事事務所建設(豊岡復興史)。 10月、神戸監獄豊岡分監は現位置に移って神戸刑務所豊岡支所となる。 12月、港浦・東港浦漁業組合が合同、港村漁業組合を結成。
1923	" 12		4月1日、郡制廃止(ただし郡役所は15年6月末に廃止)。 5月13日、円山川治水工事起工。国費3分の2、県費3分の1。 7月、円山川治水期成同盟会を解消、豊岡町他14ヶ町村治水事務組合に改組。
1924	" 13		この年から次年にかけて但馬青年学生連盟結成。 2月10日、兵庫県清和会城崎郡支部発足(城崎郡役所事績録)。 4月1日、滋茂町に第2幼稚園開設。

1925	(大正)14	<p>4月12日、駅前通舗装完成。</p> <p>4月、豊岡商業補習学校に工業科を増設、豊岡商工実修学校と改称。</p> <p>5月9日、信用組合豊岡同栄社設立（但馬信用金庫六十年史）。</p> <p>1月14日、信用組合豊岡同栄社は豊岡信用組合と改称（同上）。</p> <p>3月28日、中江種造氏銅像除幕（中江種造伝）。</p> <p>5月23日、北但大震災。</p> <p>7月3日、震災死者町葬。</p>
1926	" 15 (昭和 元)	<p>9月末までに、豊岡町に罹災民会・復興同盟会組織。</p> <p>4月4日、城崎郡婦人会発足（津居山村）。</p> <p>5月、帝国電燈は東京電燈株式会社に吸収される。</p> <p>9月15日、豊岡町処女会を豊岡女子青年団と改称。</p> <p>10月24日、豊岡中学校校庭で全但オリンピック大会挙行。</p>
1927	昭和 2	<p>4月18日、大開通に郵便局庁舎新築落成。</p> <p>6月14日、大開通に警察署庁舎新築落成。</p> <p>8月、豊岡縁装労働組合がスト突入、賃銀上げを要求したが弾圧される。</p>
1928	" 3	<p>この年、区画整理により町道の名称を改称。</p> <p>1月3日、宝林・宝正・新栄・豊岡の4銀行合併、但馬合同銀行設立。</p> <p>1月24日、大開通に豊岡町役場新庁舎落成。</p> <p>4月1日、東京電燈の山陰地区分は京都電燈株式会社に吸収される。</p> <p>6月15日、港銀行は府中銀行と合併して港府銀行となる。</p> <p>8月2日、測候所、神武山に移転。</p>
1929	" 4	<p>この年、ファイバー鞆の商品化に成功。</p> <p>4月、豊岡税務署庁舎を京極筋に新築。</p> <p>4月、出石鉄道開設（昭和19年12月撤去）。</p> <p>7月、但馬ガス株式会社設立。ガス供給開始は12年となる（大阪瓦斯五十年史）。</p> <p>9月20日、円山川漁業組合設立。後、円山川漁業会となる。</p> <p>12月12日、峰豊線（7年8月に宮津線となる）豊岡・久美浜間開通。</p>
1930	" 5	<p>2月14日、豊岡小学校で当地初のトーキー映画上映。</p> <p>3月、新堀川橋・立野大橋架設。</p> <p>6月8日、三越百貨店出張販売、町内商店連盟と商戦。</p> <p>9月18日、円山大橋竣工、9月23日渡りぞめ式。</p> <p>11月、豊岡耕地整理事業完了。</p>

年 表

1931	(昭和) 6	この年、津居山港が内務省指定港湾に選ばれる。 4月20日、中江種造翁慰霊祭を豊岡小学校で行なう(3月27日逝去につき)。
1932	" 7	8月10日、宮津線全線開通。 12月16日、港府銀行は城崎・八鹿両銀行と合併、三共銀行となる。 この年、当地初の電気着火モーター漁船進水。 この年、ザーリヤ会と彩人会が合併、但馬芸術連盟が結成されたが、11月に主なメンバーが検挙されて消滅。
1933	" 8	4月1日、豊岡町、八条村・新田村立野を合併。 5月1日、公立豊岡病院、立野に移転。 10月2日、豊岡小学校放火のため大半を焼失。
1934	" 9	9月21日、室戸台風来襲、豊岡で最低気圧 721.2 mb・最大風速 28.33 m・8時～9時雨量 52.2 mm・市域で死者行方不明 7人・家屋、農地流失など被害甚大。 10月10日、山王山に忠霊塔建立。 11月9日、豊岡商工実修学校新校舎完成、移転。
1935	" 10	4月1日、豊岡商工実修学校を豊岡商業学校と改称。 4月、神美村倉見の大本教但州別院を強制撤去。 7月15日、豊岡小学校新校舎竣工。 7月18日初の柳祭。
1936	" 11	10月1日、円山川改修工事竣工式。 10月、港村の漁船2隻、初めて沿海州沖合に出漁。 この年、円山川河口部導流堤(740 m)完成。 このころ、ファイバー鞆が豊岡鞆の主流となる。
1937	" 12	1月20日、港村漁業組合が港村漁業協同組合となる。 12月5日、但馬ガス会社ガス供給開始(大阪瓦斯五十年史)。 この年、大日本国防婦人会神美分会設立。
1938	" 13	3月、豊岡町他14ヶ町村治水事務組合解散。 9月10日、円山川河川敷に、グライダー豊岡滑空場をつくる。
1939	" 14	4月、神美村警防団設置(このころ、各町村消防組を警防団と改称)。 7月16日、町主催国防体育大会を豊岡小学校校庭で開催。
1940	" 15	10月、豊岡ファイバー鞆業界の価格統制違反事件摘発される。 12月25日、京極氏邸の一部を借りて、豊岡小学校同窓会付属図書館開設。 12月31日、組合立豊岡農業学校設立。
1941	" 16	4月1日、国民学校令施行、各小学校を国民学校と改称。

1942	(昭和)17	<p>5月3日、但馬合同・三共・但馬など、但馬内各銀行が合併、全但銀行となる（神戸銀行史）。</p> <p>12月、但馬貯蓄銀行も全但銀行に併合（神戸銀行史）。</p> <p>4月、配電統制令により京都電燈は関西配電に統合。</p> <p>7月1日、北但地方事務所を豊岡町本町の郡役所跡に設置。</p> <p>11月、兵庫県食糧営団城崎郡出張所（豊岡町）が発足、食糧配給計画に当たる。</p>
1943	" 18	<p>12月、港村国民健康保険組合結成。</p> <p>3月11日、港村漁業協同組合解散、漁業会結成。</p> <p>4月1日、豊岡町と田鶴野村が合併。</p> <p>8月1日、豊岡町と三江村が合併。</p> <p>9月20日、献納機「豊岡号」命名式を豊岡小学校講堂で挙行。</p> <p>12月25日、豊岡小学校同窓会管理の図書館を町に移管し、豊岡図書館とする。</p>
1944	" 19	<p>4月1日、豊岡商業学校県立移管、県立豊岡工業学校と町立豊岡女子商業学校とに分離。</p> <p>4月、農業関係諸団体を一元化して町村ごとに農業会誕生。</p> <p>8月、NHK 豊岡中継局（JOBU）設置。</p> <p>10月、新たに婦人会組織を一元化、大日本国防婦人会各地に生まれる。</p>
1945	" 20	<p>3月、全但銀行は神戸銀行に吸収される（神戸銀行史）。</p> <p>7月、米機の本土来襲しきり、町内民家でも家財を郊外に疎開。</p> <p>8月14日、ポツダム宣言受諾回答。15日「終戦」の詔勅放送。</p> <p>10月1日、但馬ガスが大阪ガスに吸収される（大阪瓦斯五十年史）。</p> <p>10月6日、豊岡町は山王山の忠霊塔前で、戦没兵士軍属の慰霊祭を執行。</p> <p>10月26日、アメリカ進駐軍神戸軍政部の22名の部隊が豊岡小学校講堂に進駐。</p>
1946	" 21	<p>2月5日、豊岡町農民組合結成（各村でも21～22年中に結成）。</p> <p>3月、三丹地方の歌誌「北雲」創刊。後に「雪線」と改題。</p> <p>4月10日、戦後初の衆議院議員総選挙施行。</p> <p>7月、京極祀陽によって俳誌「木兎」再刊。</p> <p>10月24日、豊岡商工会議所設立。</p>
1947	" 22	<p>3月、6・3・3制の新学制決まる。</p> <p>4月1日、各国民学校は「小学校」に戻る。</p> <p>4月11日、豊岡南・北両中学校開設。</p> <p>5月3日、日本国憲法施行。神戸地方裁判所豊岡支部・豊岡簡</p>

年 表

1948	(昭和)23	<p>易裁判所。神戸地方検察庁豊岡支部・豊岡区検察庁発足。</p> <p>5月、部落会・町内会・隣組などの解散改令公布。</p> <p>6月、豊岡商工会議所は全但5郡を包括して但馬商工会議所と改称。</p> <p>12月1日、豊岡消防署設置。</p> <p>この年、公立豊岡病院は18ヶ町村組合立となる(現1市9町)。</p> <p>2月1日、自治体警察発足により豊岡町警察を設置。</p> <p>3月、豊岡町他4ヶ村消防事務組合結成、豊岡組合消防署設置。</p> <p>4月1日、県立豊岡中学校・県立豊岡高等女学校は、それぞれ県立豊岡東高等学校・同西高等学校となり、9月1日統合して県立豊岡高等学校となる。</p> <p>7月、豊岡町農業会解散により豊岡信用組合復活。</p> <p>8月、各町村の農業会を解散、農業協同組合を設立。</p>
1949	" 24	<p>3月16日、豊岡北中学校校舎新築。</p> <p>4月、旧工業学校・女子商業学校・農業学校を統合、県立豊岡実業高等学校設置。</p> <p>9月16日、港村漁業会が津居山港漁業協同組合となる。</p> <p>11月3日、豊岡町制施行60周年記念式挙行。</p> <p>この年、神戸刑務所豊岡出張所は豊岡拘置支所と改称。神戸家庭裁判所豊岡支部設置。</p>
1950	" 25	<p>4月1日、豊岡町・五荘村・新田村・中筋村が解体合併、豊岡市発足。</p> <p>4月15日、豊岡市連合青年団発足。</p> <p>5月10日、市長選挙。初代市長に佐川辰夫当選。</p> <p>7月4日、豊岡市連合婦人会発足。</p> <p>7月、但馬商工会議所を豊岡商工会議所に再改組。</p> <p>9月17日、豊岡小学校運動場で、第1回市民体育大会開催。</p> <p>11月3日、第1回豊岡市展を市役所2階で開催、現在に至る。</p> <p>豊岡市歌制定。</p> <p>11月29日、豊岡市商店連合会結成。</p> <p>この年、市域を都市計画区域とする。</p>
1951	" 26	<p>9月6日～11日、甲子園で豊岡市・加古川市・良元村の組合競輪開催。以後、毎年開催。</p> <p>9月23日、豊岡小学校講堂で卸商業組合主催の第1回豊岡市卸売見本市。43年まで毎年、44年以後は卸センターで59年まで開催。</p> <p>12月、市営質屋設置(38年3月、兵庫県労金但馬支店に統合)。</p>
1952	" 27	<p>5月、市主催戦没者追悼式(合祀者1,161柱)。</p>

1953	(昭和)28	6月、県営の円山川増補工事はじまる。
		10月12日、但馬養老院（塩津）開設（38年、豊岡老人ホームと改称）。
		11月21日、兵庫県城崎家畜保健所開所（高屋。44年4月1日、和田山家畜保健衛生所に統合）。
		12月20日、市庁舎増改築竣工。
		7月27日、江野トンネル完成（延長 840 m）。
1954	" 29	9月25日、13号台風来襲、水田に冠水 5 日間。
		10月24日、庶民利殖機関「保全経済会」営業不振で突然休業、当地方でも被害大。
		11月20日、但馬労働会館完成。
		12月 5 日、6 日、第 1 回豊岡市特産品振興展示会。
		4月14日、豊岡商業協同組合設立。
1955	" 30	7月 1 日、豊岡市警察署を兵庫県豊岡警察署に改組。
		10月16日、旧港大橋開通。
		11月、県杞柳生産指導所と機械金属試験所を統合して豊岡工芸指導所設立（発足は翌30年 3 月）。
		4月 1 日、奈佐村・港村を豊岡市に編入。NHK 豊岡中継局が放送局に昇格。
		8月12日、原水爆禁止但馬平和大会を豊岡小学校講堂で行なう。
1956	" 31	9月 1 日、地方事務所を廃し、各部門分離。
		10月、豊岡病院円形診療棟完成。
		1月20日、港商工振興会設立。
		7月 1 日、豊岡実業高等学校農業科が独立、県立豊岡農業高等学校となる。
		7月、津居山商港開港。
1957	" 32	7月、オープン協会豊岡支部結成。
		9月、香住銀行が但馬銀行と改称。
		11月、豊岡電報電話局新築完成。
		11月、円山川下流の建設省直轄工事はじまる。
		3月 1 日、市内の電話を自動式に切替え。
1958	" 33	8月20日～25日、但馬開発産業博覧会を豊岡小学校で開催。
		9月 1 日、神美村のうち穴見谷地区 9 大字を豊岡市に編入。
		1月 1 日、日高町上佐野を豊岡市に編入。
		4月、国民健康保険制度を全市域に普及。
		5月、久々比神社（下宮）・酒垂神社（法花寺）各本殿、国の重要文化財に指定。
8月、豊岡農業青年研修所落成（九日市下町。昭和41年 3 月閉		

年 表

1959	(昭和)34	<p>鎮)。</p> <p>3月、生田通、御陵通間の水路上に野外市場完工。</p> <p>7月、八条小学校新築工事(第1期)完成。</p> <p>9月26日、伊勢湾台風襲来、市街地の大半浸水。床上浸水3,332戸。</p>
1960	" 35	<p>3月25日、市立母子寮落成(塩津)。</p> <p>5月31日、市民体育館完成(立野)。</p> <p>7月、豊岡鞆囊輸出協同組合設立。</p>
1961	" 36	<p>7月、豊岡市元町交差点に但馬初の交通信号設置。</p> <p>8月2日、市営自動車教習所開所。</p> <p>8月、ヘリコプターにより全市域集団いもち病防除(37年まで。以後中止)。</p> <p>9月16日、第2室戸台風来襲。</p>
1962	" 37	<p>1月25日、豊岡市交通安全都市を宣言。</p> <p>6月14日、豊岡測候所新舎屋完成移転(桜町)。</p> <p>6月30日、昭和21年以来進められていた六方川改修工事完成(流路延長、小野川・穴見川・鎌谷川を含み、11,410m²・工費2億5840万円)。</p> <p>8月、都市計画街路大開・塩津線(宵田・小尾崎バイパス、延長581m・幅12m)竣工式。</p> <p>9月14日、北但海岸道路瀬戸―竹野浜間完成。</p> <p>9月15日、立野大橋(延長302m・幅6m)完成。</p> <p>11月27日、高屋に厚生年金住宅完成。</p>
1963	" 38	<p>2月1日、大雪により雪害対策本部設置、災害救助法適用。</p> <p>7月25日、但馬児童相談所完成。</p> <p>"、山陰海岸固定公園、国立公園に昇格。</p> <p>10月1日、港農協を除く市内各農協が合併、豊岡市農協を設立。</p> <p>10月21日、低開発地域工場開発地区の指定を受ける。</p> <p>10月22日、鞆柳考案保護協会発足。</p> <p>11月30日、県立但馬文教府完成(妙楽寺。研修棟と宿泊棟で工費1億2000万円)。</p>
1964	" 39	<p>4月1日、し尿処理場完成(一日市。8800m²)。</p> <p>4月8日、近畿大学付属豊岡女子高等学校開校(戸牧)。</p> <p>4月29日、豊岡卸商業協同組合設立。</p> <p>6月30日、一本松団地完成。</p> <p>8月26日、中江竜二氏に名誉市民(第一号)の称号を贈る。</p> <p>9月、三丹地方開発促進協議会発足。</p> <p>10月5日、港中学校校舎完成(氣比)。</p>

1965	(昭和)40	2月11日、コウノトリ人工飼育始まる(野上)。 5月10日、コウノトリ、兵庫県鳥に指定。
1966	" 41	3月、五荘大橋(山陰線と立体交叉)完成。 4月15日、円山川一級河川に昇格。 4月29日、市長に橋本省三当選。 8月、豊岡オープンケース協会を豊岡鞆振興協会に改組。 10月1日、前市長佐川辰夫氏、名誉市民第二号。 11月、兵庫県鞆囊杞柳製品輸出協同組合を兵庫県輸出鞆商業組合に改組。 12月15日、津居山団地10戸完成。港地区初の市営住宅。
1967	" 42	3月22日、世界連邦平和都市を宣言。 4月28日、近畿大学豊岡女子短大開校。 7月1日、豊岡学校給食センター開所。 7月5日、奈佐小学校改築工事完成(2階建延 876m ² ・工費 2億800万円)。 7月10日、豊岡排水ポンプ場完成(立野)。 7月19日、港大橋架けかえ完成。 10月、北但火葬場完成(高屋)。 12月1日、新住居表示による新町名を市街地で施行。
1968	" 43	4月19日、市街地周辺に都市計画法による用途地域指定告示。 8月31日、佐野浄水場完工。 9月28日、衛生文化都市宣言。 10月5日、天皇・皇后両陛下ご来豊。 10月20日、市営陸上競技場完成(戸牧)。
1969	" 44	4月15日、県立但馬労働会館、中央町に改築完工(鉄筋3階建延 1573m ²)。47年4月、豊岡労働会館と改称。 6月30日、戸牧第1団地完成。 8月20日、同 第2団地完成。 10月10日、市営野球場完成(戸牧)。 10月25日、豊岡卸センター完成(中陰)。 11月17日、但馬農協会館竣工(立野町)。 12月、但馬観光連盟(但馬1市18町)設立。
1970	" 45	6月、高屋霊園第1次計画 802基完工。 6月24日、豊岡駅通商店街振興組合設立。 7月21日、北但海岸道路全線開通。 8月10日、市立中央駐車場、旧円山川廃川敷内に開場。 12月1日、北中学校新校舎完成(下陰)。 12月、協同組合豊岡鞆工業センターが完成(九日市上町)。

年 表

1971	(昭和)46	<p>6月12日、日本の砂防事業に尽した赤木正雄氏、名誉市民第三号に。</p> <p>9月、公共下水道事業認可。</p> <p>10月1日、市民会館完成（立野町）。</p> <p>10月22日、県豊岡総合庁舎完成（幸町）。</p> <p>11月24日、正法寺大橋（山陰線と立体交叉）竣工。</p> <p>12月10日、港商業協同組合設立。</p> <p>この年、豊岡駅通り商店街アーケード完成。</p>
1972	" 47	<p>8月9日、カントリーエレベーター（もみ処理能力2,000トン）完工（木内）。</p> <p>9月15日、長寿園開設（京町）。</p> <p>10月1日、旧北但地方事務所建物を利用して、市立郷土資料館開館（京町）。</p> <p>10月4日、県立豊岡高校、出火。達徳会館・図書館の他、全焼。</p>
1973	" 48	<p>3月、公共下水道幹線パイプ第1号埋設。</p> <p>7月14日、豊岡市商業振興協議会（8組合）設立。</p> <p>10月28日、山王山に平和塔完成。</p> <p>11月、豊岡小学校はじめ各小学校創立100周年を祝う。</p> <p>11月20日、河梨峠改修工事完成。</p> <p>12月17日、消防署が旧豊岡土木事務所跡（寿町）に移転。</p>
1974	" 49	<p>3月9日、新堀川橋（延長 306m・車道幅 6.5m・歩道幅 1.5m・工費 6億6000万円）開通（小田井町一六地藏）。</p> <p>9月11日、豊岡工場公園予定地地質調査はじまる（立石）。</p> <p>9月30日、豊岡検察庁舎新規落成（京町）。</p>
1975	" 50	<p>2月22日、12年ぶりの大雪に雪害対策本部設置。</p> <p>6月13日、神戸地家裁を含む裁判所庁舎新築落成（京町）。</p> <p>9月28日、市民総合グラウンドを日本陸上競技連盟第3種公認施設として改修（戸牧）。</p>
1976	" 51	<p>3月24日、豊岡南・神美両中学校閉校式。</p> <p>4月1日、新豊岡南中学校開校（大磯町）。</p> <p>9月10日、台風17号来襲、市災害対策本部設置、災害救助法適用。</p> <p>この年、豊岡市は豊岡市勢振興基本構想を策定。</p> <p>豊岡市美術作家協会結成（昭59年より豊岡市美術協会と改称）。</p>
1977	" 52	<p>2月17日、大雪で雪害対策本部設置。積雪 1.4m。</p> <p>12月10日、雇用促進住宅下陰第2宿舎（2棟80戸）が完成。</p>
1978	" 53	<p>3月26日、豊岡鞆会館完工（大磯町）。</p> <p>4月11日、漁村環境改善総合センター（2階建 806m²・工費</p>

1979	(昭和)54	<p>9900万円)完成(津居山)。 6月29日、青少年健全育成都市宣言。 7月10日、港地区水道で時間給水始まる。 7月27日、干ばつ対策本部設置(8月18日解散)。 8月2日、上水道に海水が混入、円山川内に防潮壁を築く。 11月30日、港東小学校三原分校閉校式。 3月28日、宵田商店街アーケード完成。 4月27日、国道178号線豊岡トンネル(日撫・山本間427m)開通。 10月19日、台風災害対策本部設置。</p>
1980	" 55	<p>11月1日、第30回豊岡市展で彫塑・工芸部門を新設。 8月10日、港西小学校改築工事完成(鉄筋3階建・延3358m²・工費3億9000万円)。 9月18日、大規模小売店「さとう豊岡ショッピングプラザ」開店。 この年、冷夏、米大減収。10月1日、市農作物冷夏対策本部設置。 12月1日、三洋電機(株)北条製造事業部豊岡工場操業(上佐野)。</p>
1981	" 56	<p>3月27日、田鶴野公民館竣工(鉄筋2階建・延496m²)。 6月10日、豊岡市史上巻発刊。 6月12日、橋本省三市長退任。 8月1日、新市長に平尾源太夫就任。 11月18日、橋本省三前市長、名誉市民(第4号)に。同日逝去。</p>
1982	" 57	<p>3月10日、塩津市営住宅建設工事完成(鉄筋3階建18戸・工事費1億4000万円) 4月1日、福祉会館開設(鉄筋3階建・2700m²)(城南町)。 同日、浄化センター(下水道終末処理場)始動(一日市)。 7月27日、皇太子ご夫妻来豊(但馬産業館・コウノトリ・玄武洞などご視察)。</p>
1983	" 58	<p>4月1日、元豊岡郵便局舎を市南庁舎に転用。 10月1日、豊岡市と日高・出石・但東3ヶ町の北但広域消防事務組合発足。</p>
1984	" 59	<p>2月8日、豪雪で積雪量1.31mとなる。 4月18日、豊岡中核工業団地造成工事起工(27ha。神美地区)。 5月14日、森津橋完成式(延長70m・車道幅5.5m・歩道幅2m・総工費8億6000万円)。</p>

年 表

1985	(昭和)60	<p>7月1日、但馬地域伝染病棟を豊岡病院に統合。</p> <p>10月1日、但馬空港建設候補地気象調査開始。</p> <p>“ ”、豊岡小学校体育館竣工（鉄筋2階建延 1944m²・工事費3億1500万円）。</p> <p>1月10日、国鉄は宮津線を廃止の意向。</p> <p>4月22日、豊岡綜合卸売市場竣工（福田。敷地 33,700m²・建物 9400m²・工費21億5000万円）。</p> <p>4月、特別老人養護施設「このとり荘」開設（塩津町）。</p> <p>11月、豊岡市基本構想を策定。</p>
------	--------	---

補注・史料の略称

本編・編外・付録を通じて、引用史料は次のとおり略称を用いた。

『鳥井』 → 鳥井家『公私之日記』

『田中御用留』 }
 『御用留』 } → 田中家『御用留』

歴代首長・議長・議員名簿（市域内，または関係地区分）

(1) 各町村長（豊岡市域分）

豊岡町

氏名	在任期間
瀧田清兵衛	明治22・6・4～明治23・7・13
由利三左衛門	〃 23・7・26～〃 25・6・17
佐川義右衛門	〃 25・7・9～〃 27・5・1
富田仙助	〃 27・9・5～〃 31・3・13
原庄七	〃 31・8・31～〃 43・5・12
佐川恒太郎	〃 43・5・13～大正7・9・20
由利三左衛門	大正7・11・2～〃 13・9・4
伊地智三郎右衛門	〃 13・12・19～昭和5・3・10
瀧野彦次郎	昭和5・11・22～〃 9・11・22
佐川恒太郎	〃 10・4・1～〃 18・10・4
西垣勘次郎	〃 18・10・6～〃 20・9・23
伊地智成	〃 20・9・24～〃 21・2・19
横山良造	〃 22・2・21～〃 22・4・6
佐川辰夫	〃 22・4・7～〃 25・3・31

八條村

上島要三	明治22・5・〃～明治25・2・
沢田筆太郎	〃 25・8・〃～〃 30・7・
沖野源太郎	〃 30・8・19～〃 36・8・3
沢田筆太郎	〃 36・4・15～〃 43・3・28
沖野源太郎	〃 44・2・24～大正4・11・8
宮村与平治	大正4・11・9～〃 8・7・4
沢田筆太郎	〃 8・8・4～〃 12・8・3
沖野源太郎	〃 12・10・4～昭和5・12・8
宮村与平治	昭和5・12・24～〃 8・3・31

三江村

足立六左衛門	明治22・5・22～明治30・5・21
伊地智三郎右衛門	〃 30・5・26～〃 33・3・24
足立六左衛門	〃 33・4・17～〃 40・12・20
伊地智猪之助	〃 41・1・14～〃 44・8・28
黒坂喜之助	〃 45・2・2～大正2・4・2
伊地智三郎右衛門	大正2・4・18～〃 7・11・11

足立六左衛門	〃 7・12・16～〃 11・12・16
中具重左衛門	〃 12・2・1～昭和2・1・30
足達佐之助	昭和2・7・28～〃 6・7・27
藤原浅之助	〃 7・7・12～〃 8・2・14
稲葉勘兵衛	〃 8・3・14～〃 9・2・10
三宅信太郎	〃 10・4・1～〃 18・2・7
田中藤右衛門	〃 18・2・8～〃 18・7・31

田鶴野村

佐伯五郎兵衛	明治22・5・10～明治26・3・
由月喜之助	〃 26・3・〃～〃 30・3・
佐伯昌造	〃 30・3・25～〃 32・11・
由月喜之助	〃 33・1・10～〃 34・3・16
(代理・城崎郡書記) 長瀬貞夫	〃 34・5・27～〃 34・6・10
(有給職) 岡乙二郎	〃 34・6・10～〃 34・9・11
由月喜之助	〃 34・9・11～〃 34・5・29
衣川五郎兵衛	〃 35・6・30～〃 37・7・4
北村安左衛門	〃 37・8・2～〃 41・8・1
佐伯五郎兵衛	〃 41・8・7～大正元・8・6
峠延太郎	大正元・8・7～〃 6・8・27
田結庄復次	〃 7・2・5～〃 8・1・29
衣川五郎兵衛	〃 8・2・15～〃 11・4・15
奥村平吉	〃 11・6・10～昭和2・4・30
峠延太郎	昭和2・5・13～〃 6・5・12
城田徳左衛門	〃 6・5・13～〃 6・12・10
岩本徳藏	〃 6・12・15～〃 10・3・31
岡宗太夫	〃 10・4・4～〃 13・12・20
深田与右衛門	〃 13・12・22～〃 16・2・10
小崎市左衛門	〃 16・2・10～〃 17・3・2
島田源吉	〃 17・3・6～〃 18・1・22
岡宗太夫	〃 18・3・11～〃 18・3・31

新田村

神尾精一郎	明治22・4・15～明治22・11・23
田中市右衛門	〃 22・12・〃～〃 27・1・
江本發三郎	〃 29・10・30～〃 31・9・7
長谷川三之助	〃 31・10・11～〃 38・1・16

松井市郎右衛門	昭和38.2.16~明治40.3.20
江本發三郎	〃 40.4.16~ 〃 40.12.5
細田市右衛門	〃 40.12.27~ 〃 42.12.21
岡本徳右衛門	〃 43.1.14~ 〃 43.12.31
松井市郎右衛門	〃 44.1.23~大正3.12.31
岡又右衛門	大正4.1.27~ 〃 4.12.31
根岸五郎	〃 5.1.20~ 〃 5.12.28
松井市郎右衛門	〃 6.2.6~ 〃 8.12.30
北垣清太夫	〃 9.1.24~ 〃 13.1.23
岡本徳右衛門	〃 13.2.27~ 〃 14.2.4
細田市右衛門	〃 14.10.21~昭和4.10.20
竹中理太郎	昭和5.2.10~ 〃 9.2.9
岡本会一	〃 9.3.5~ 〃 9.11.26
根岸五郎	〃 10.2.18~ 〃 14.2.17
岡又右衛門	〃 14.8.28~ 〃 18.1.23
北垣清太夫	〃 18.1.27~ 〃 21.11.20
江本晋	〃 22.4.8~ 〃 25.3.31

五荘村

森垣彌三右衛門	明治22.5.23~明治28.9.18
木築恭郎	〃 28.9.26~ 〃 34.3.27
沢田五郎治	〃 34.10.3~ 〃 36.10.5
三角五郎左衛門	〃 36.10.6~ 〃 38.7.5
古橋藤太夫	〃 38.7.6~ 〃 41.1.15
木下宗兵衛	〃 41.1.31~ 〃 43.4.10
福井治右衛門	〃 43.4.28~ 〃 45.4.2
安井岡右衛門	〃 45.4.29~大正2.6.24
三角五郎左衛門	大正2.9.25~ 〃 4.4.23
岡田惣右衛門	〃 4.5.12~ 〃 5.12.6
佐伯善兵衛	〃 5.12.18~ 〃 9.12.17
大下淳一	〃 10.3.4~ 〃 13.1.3
伊原初太郎	〃 13.1.19~昭和3.1.18
大江仁兵衛	昭和3.1.19~ 〃 5.7.11
佐伯善兵衛	〃 5.9.18~ 〃 9.9.17
大坪彌	〃 9.9.18~ 〃 10.6.6
福井治右衛門	〃 10.6.7~ 〃 11.4.8
北村助四郎	〃 11.4.11~ 〃 13.8.16
安井岡右衛門	〃 13.8.18~ 〃 14.6.16
北村赳男	〃 14.7.10~ 〃 18.7.9
森垣武夫	〃 18.7.21~ 〃 18.12.21
白髭昭義	〃 19.1.27~ 〃 21.11.22

甲斐中文治郎	昭和22.4.8~昭和25.3.31
--------	--------------------

中筋村

西浦彌四郎	明治22.4.1~明治24.7.15
門間禎二郎	〃 24.7.16~ 〃 28.5.26
西浦彌四郎	〃 28.7.25~ 〃 30.4.8
小西磯左衛門	〃 30.4.15~ 〃 34.4.14
門間禎二郎	〃 34.4.25~ 〃 38.4.24
小西七郎左衛門	〃 38.5.4~ 〃 42.4.27
武中甚太郎	〃 42.4.28~大正2.4.27
赤木一雄	大正2.5.20~ 〃 5.12.31
小西七郎左衛門	〃 6.8.8~ 〃 10.5.27
赤木一雄	〃 10.8.24~ 〃 12.3.14
(代理)武中鶴治郎	〃 12.3.15~ 〃 14.8.17
加藤大太郎	〃 14.8.18~昭和4.8.12
白髭浅右衛門	昭和5.5.23~ 〃 5.10.31
(代理)西浦昌夫	〃 5.11.1~ 〃 6.2.11
小西保造	〃 6.2.12~ 〃 8.11.22
赤木一雄	〃 9.1.13~ 〃 21.1.12
水島忠兵衛	〃 21.1.25~ 〃 22.4.3
浅井二郎	〃 22.4.3~ 〃 25.3.31

奈佐村

三宅治右衛門	明治22.5.24~明治23.11.25
三谷四郎右衛門	〃 23.12.12~ 〃 29.4.19
上田嘉左衛門	〃 29.5.19~ 〃 34.12.30
田中彦右衛門	〃 35.1.24~大正11.7.11
岡谷藤右衛門	大正11.7.21~ 〃 15.7.21
今井正長	〃 15.10.4~昭和6.9.17
二位平次郎	昭和7.1.1~ 〃 8.9.25
岡谷藤右衛門	〃 8.11.18~ 〃 9.12.3
今井正長	〃 9.12.4~ 〃 21.7.15
田中不器一郎	〃 21.7.17~ 〃 22.3.29
青山喜樹	〃 22.4.5~ 〃 26.4.4
岡谷藤右衛門	〃 26.4.24~ 〃 30.3.31

港 村

後藤 錠太郎	明治22.5.28~明治34.5.27
谷田 治兵衛	" 34.6.5 ~ " 37.4.7
大江 亀松	" 37.5.27 ~ " 39.4.30
後藤 菅雄	" 39.5.21 ~ " 43.5.20
元井 大蔵	" 43.6.27~大正7.7.1
尾崎 武次	大正7.7.15 ~ " 15.7.20
後藤 菅雄	昭和2.4.25 ~ " 2.5.20
大江 亀松	" 2.5.31 ~ " 4.4.19
吉田 総九郎	" 4.6.21 ~ " 22.1.31
渡辺 市重郎	" 22.4.5 ~ " 26.4.4
高谷 実太郎	" 26.4.23 ~ " 30.3.31

神美村

平尾 学治郎	明治22.5. ~ 明治23.7.
西村 助太夫	" 23.7. ~ " 25.4.
平尾 源太夫	" 25.4. ~ " 37.2.
田部 文治郎	" 37.5. ~ 大正2.5.
平尾 学治郎	大正2.5. ~ " 6.6.
平尾 令太郎	" 6.7. ~ " 13.11.30
井上 金右衛門	" 13.12.22~昭和3.12.20
西村 政夫	昭和4.1.5 ~ " 13.6.21
平尾 達治郎	" 13.6.22 ~ " 21.5.4
松岡 勘七	" 21.5.6 ~ " 22.2.25
水島 勝之助	" 22.4.8 ~ " 23.12.13
山崎 泰輔	" 24.1.25 ~ " 28.1.24
平尾 源太夫	" 28.1.25 ~ " 32.8.31

(2) 豊岡市長

氏 名	在 任 期 間
佐川 辰夫	昭和25.5.10 ~ " 41.5.9
橋本省三	" 41.5.10 ~ " 56.6.12
平尾源太夫	" 56.7.26~現在

(3) 豊岡市議会議長

氏 名	在 任 期 間
谷岡 友造	昭和25.5.22~昭和29.5.9
高橋 六四郎	{ " 29.5.20 ~ " 33.5.9 " 34.5.19 ~ " 35.5.19
小国 順吉	{ " 33.5.24 ~ " 34.5.19 " 35.12.19 ~ " 37.5.9
富山 扁夫	{ " 35.5.19 ~ " 35.12.19 " 39.5.18 ~ " 40.4.24
田中 隆雄	" 37.5.21 ~ " 38.5.21
久保 力松	" 38.5.21 ~ " 39.5.18
生駒 定	{ " 40.4.24 ~ " 41.5.9 " 42.5.18 ~ " 44.5.16 " 51.5.15 ~ " 52.5.18
井戸 政信	" 41.5.18 ~ " 42.5.18
北垣 五郎	{ " 44.5.16 ~ " 45.5.9 " 46.5.18 ~ " 49.5.9 " 53.5.17 ~ " 54.5.16
中具 宗雄	{ " 45.5.16 ~ " 46.5.18 " 49.5.16 ~ " 50.2.21
小川 清	{ " 50.2.21 ~ " 51.5.15 " 54.5.16 ~ " 55.5.14 " 60.5.17 ~ " 61.5.9
谷山 麻雄	{ " 52.5.14 ~ " 53.5.9 " 55.5.14 ~ " 56.5.15
横山 修	" 56.5.15 ~ " 57.5.9
田中 幸男	" 57.5.18 ~ " 58.5.13
佐伯 雄一	" 58.5.13 ~ " 59.5.15
田中 隆夫	" 59.5.15 ~ " 60.5.17
太田 章人	" 61.5.19~現在

(4) 衆議院議員 (但馬を含む選挙区選出関係議員)

氏名	在任期間	党派	出身地
佐藤文兵衛	明治23・7 ~ 明治27・9	議一改	糸井村
青木 匡	“ 23・7 ~ “ 25・2	議一改	
岡 精 逸	“ 25・2 ~ “ 31・3	弥一立自	美方郡
桜井 勉	“ 27・9 ~ “ 31・3	立自	出石町
富田 仙助	“ 31・3 ~ “ 35・8	進一本	豊岡町
浅田 貞次郎	“ 31・3 ~ “ 31・8	山下	生野町
西村 淳 蔵	“ 31・8 ~ “ 35・8	憲党	八鹿町
齐藤 隆 夫	{ “ 45・5 ~ 大正9・5 大正13・5 ~ 昭和15・3 昭和17・4 ~ “ 27・10	国一同一憲会一民 一無一進一民主一 民自	室埴村
丸尾 光 春	明治45・5 ~ 大正4・3	国	生野町
松山 常次郎	大正9・5 ~ “ 13・5	政	和歌山県
鎌田 三郎兵衛	“ 9・5 ~ “ 13・5		口大屋村
若宮 貞 夫	“ 13・5 ~ 昭和17・4	政本一政	豊岡町
田 昌	昭和3・2 ~ “ 7・2	民	氷上郡
畑 七右衛門	“ 7・2 ~ “ 11・2	政	氷上郡
植村 嘉三郎	“ 11・2 ~ “ 12・4	民政	多紀郡
山川 頼三郎	“ 12・4 ~ “ 17・4	政	多紀郡
佐々井 一 晃	“ 17・4 ~ “ 21・4	日	氷上郡
木崎 為 之	“ 17・4 ~ “ 21・4	推	豊岡市
小島 徹 三	{ “ 21・4 ~ “ 24・1 “ 27・10 ~ “ 42・1 “ 44・12 ~ “ 51・12	自一民主一改一 日民一自民	八鹿町
佐々木 盛 雄	{ “ 24・1 ~ “ 27・10 “ 28・4 ~ “ 30・2 “ 33・5 ~ “ 35・11	自一民自一自由一 無	氷上郡
有田 喜 一	{ “ 24・1 ~ “ 33・5 “ 35・11 ~ “ 51・12	民主一改一日民一 自民	氷上郡
甲斐 中文治郎	“ 27・10 ~ “ 28・4	自由	豊岡市
伊賀 定 盛	{ “ 42・1 ~ “ 44・12 “ 51・12 ~ “ 58・12	社	(城崎郡) 豊岡市
佐々木 良 作	“ 30・2 ~ 現在	社一民社	八鹿町
谷 洋 一	“ 51・12 ~ “	自民	村岡町
西山 敬次郎	“ 58・12 ~ “ 61・7	自民	氷上郡

議一議員集会所 憲会一憲 政 会 民一立憲民政党 自由一自由 党 推一翼賛政治体
 弥一弥生倶楽部 本一憲 政 本 党 日一大日本党 社一日本社会党 制協議会推選
 立自一立憲自由党 立政一立憲政友会 自由一日本自由党 日民一日本民主党
 進一進 歩 党 国一立憲国民党 民主一民 主 党 自民一自由民主党
 山下一山下倶楽部 同一立憲同志会 民自一民主自由党 民社一民主社会党
 憲党一憲 政 党 政本一政 友 本 党 改一改 進 党 無一無 所 属

(5) 兵庫県会議員

ア. 選挙区「城崎郡」のうち、豊岡市内出身者

氏名	在任期間
足立六左衛門	{明治12・2～"13・1 "17・5～"18・10
白髭浅右衛門	"12・3～"12・4
渡辺七郎	"13・1～"19・7
大江甚助	{ "15・2～"16・7 "18・11～"22・2
水垣義三郎	"16・9～"17・5
青田朝太郎	"19・8～"27・2
大江頼之助	"22・2～"23・2
森垣弥三右衛門	"23・2～"29・10
田中彦右衛門	"29・12～"32・7
白髭初造	"32・9～"36・9
原庄七	"36・9～"40・9
沖野源太郎	"41・10～"44・9
北田新蔵	"44・9～大正4・9
由利三左衛門	大正4・9～"8・9
伊地智三郎右衛門	"8・9～昭和6・9
石田長太郎	昭和6・9～"10・9
佐川恒太郎	"14・9～"21・12
佐川辰夫	"22・4～"25・5

イ. 選挙区「出石郡」のうち、旧神美村出身者

宇野文右衛門	{明治12・3～明治16・2 "18・1～"18・10
本間果	"16・2～"17・12
平尾源太夫	"21・4～"22・8
平尾達次郎	"22・9～"23・2
田辺文治	"23・2～"27・2
平尾庫一	{ "27・2～"31・10 "36・9～"44・9
平尾令太郎	大正8・9～"9・9
平尾源太夫	昭和2・9～昭和6・1

ウ. 選挙区「豊岡市」

橋本省三	昭和25・7～"37・12
田中祥悟	"38・4～"46・4
森垣孝一	"46・4～"50・4
中具宗雄	"50・4～現在

(6) 城崎郡長

氏名	在任期間
久保田周輔	明治12・1・～"18・10・16
小西甚平	"18・10・16～"23・5・19
藤井雅太	"23・5・19～"24・8・19
上石保直	"24・8・19～"26・9・29
赤堀威	"26・9・30～"29・1・18
原田千之助	"29・1・18～"31・10・31
上石保直	"31・10・31～"32・2・28
児玉利実	"33・1・22～"33・3・27
内海忠誨	"33・5・1～"42・1・18
小林正義	"42・1・18～大正2・5・30
永木誠太郎	大正2・5・30～"6・2・28
海江田権蔵	"6・2・28～"8・7・4
中林忠太郎	"8・7・4～"12・1・31
磯野鶴太郎	"12・2・23～"14・7・20
神戸元次郎	"14・7・20～"15・6・30

(7) 出石郡長

氏名	在任期間
西山員直	明治12・1・13～"24・8・14
西谷野孝直	"26・9・30～"29・10・13
黒田直	"29・10・13～"30・9・13
新井智三郎	"30・10・6～"32・9・22
山田豊吉	"32・9・25～"37・6・2
森田久忠	"37・6・2～"39・2・19
永木誠太郎	"39・2・19～大正1・10・15
森岡二郎	大正1・10・15～"4・1・25
伊達四雄	"4・1・25～"6・2・28
庄野繁治	"6・2・28～"8・8・21
柴原琢	"8・8・21～"12・1・31
松村昇	"12・2・23～"13・9・9
片岡	"13・9・9～"13・12・17
田中豊太郎	"13・12・23～"15・7・1

(8) 城崎郡会議員

氏名	在任期間	選挙区
富田仙助	明治29・7・20 ～ " 32・6・30	豊岡町
大江仁兵衛	{ " 29・7・20 ～ " 32・6・30 大正8・9・30 ～大正12・3・31	五荘村
田中彦右衛門	明治29・7・20 ～大正4・9・29	奈佐村
為田治兵衛	明治29・7・20 ～明治32・6・30	港村
青田朝太郎	" 29・7・20 ～ " 32・6・30	田鶴野村
田中浅太郎	" 29・7・20 ～ " 29・12・28	新田村
赤木甚太夫	" 29・7・20 ～ " 32・6・30	中筋村
足立六左衛門	" 29・7・28 ～ " 32・6・30	八条村 三江村
西垣勘次郎	{ " 29・8・1 ～ " 32・6・30 " 32・9・30 ～ " 36・9・29	地主 豊岡町
後藤平右衛門	" 29・8・1 ～ " 32・6・30	地主
佐川義右衛門	" 29・8・1 ～ " 32・6・30	"
原庄七	" 29・8・1 ～ " 32・6・30	"
長谷川三之助	{ " 30・2・20 ～ " 32・6・30 " 40・9・30 ～ " 44・9・29	新田村
橋本久治郎	" 30・9・30 ～ " 38・12・24	豊岡町
田辺勘三	" 30・9・30 ～ " 36・9・29	八条村
松井市郎右衛門	" 32・9・30 ～大正4・9・29	新田村
古橋藤太夫	明治32・9・30 ～ " 36・9・29	五荘村
稲葉勘兵衛	" 32・9・30 ～ " 36・9・29	三江村
古川与一	" 32・9・30 ～ " 40・9・29	田鶴野村
島崎四郎兵衛	" 32・9・30 ～ " 36・9・29	港村
小西七郎左衛門	{ " 32・9・30 ～ " 36・9・29 大正4・9・30 ～ " 8・9・29	中筋村
谷田治兵衛	明治33・5・27 ～ " 35・3・7	港村
渡辺松五郎	" 35・5・24 ～ " 40・9・29	"
信部重太夫	" 36・9・30 ～ " 40・9・29	八条村
福井治右衛門	" 36・9・30 ～ " 40・9・29	五荘村
黒坂利八	" 36・9・30 ～ " 40・9・29	三江村
武中駒造	" 36・9・30 ～ " 37・1・16	中筋村
由良嘉兵衛	" 37・4・8 ～ " 40・9・29	"
佐川恒太郎	" 39・3・22 ～ " 40・9・29	豊岡町
由利三左衛門	" 40・9・30 ～ " 43・5・13	"
富田登	{ " 40・9・30 ～ " 44・9・29 大正8・9・30 ～ " 8・10・8	"
沖野源太郎	明治40・9・30 ～大正8・10・8	八条村
本井文右衛門	明治40・9・30 ～ " 44・9・29	五荘村
伊地智三郎右衛門	明治40・9・30 ～大正12・3・31	三江村
阪井忠右衛門	明治40・9・30 ～大正12・3・31	田鶴野村
大江亀松	明治40・9・30 ～ " 42・11・11	港村
西浦昌夫	" 40・9・30 ～ " 44・9・29	中筋村
尾崎武次	" 43・1・29 ～大正4・9・29	港村
橋本卓爾	明治43・8・5 ～大正4・9・29	豊岡町

松井増太郎	明治44・9・30 ～大正4・9・29	豊岡町
北田新蔵	明治44・9・30 ～大正4・9・29	"
宮村与平治	明治44・9・30 ～大正8・9・29	八条村
松井市郎右衛門	明治44・9・30 ～大正4・9・29	新田村
佐伯善兵衛	明治44・9・30 ～大正4・9・29	五荘村
峠延太郎	明治44・9・30 ～大正4・9・29	田鶴野村
西村昌夫	明治44・9・30 ～大正4・9・29	中筋村
森垣治郎右衛門	明治45・6・20 ～大正2・7・1	五荘村
本井鶴蔵	大正2・9・18 ～"4・9・29	"
佐川文之助	"4・9・30 ～"8・9・29	豊岡町
遠藤嘉吉郎	"4・9・30 ～"8・9・29	"
細田市右衛門	"4・9・30 ～"8・9・29	新田村
伊原初太郎	"4・9・30 ～"8・9・29	五荘村
二位平治郎	"4・9・30 ～"8・9・29	奈佐村
衣川五郎兵衛	"4・9・30 ～"8・9・29	田鶴野村
渡辺市重郎	"4・9・30 ～"12・3・31	港村
瀧野彦次郎	"8・9・30 ～"12・3・31	豊岡町
河本清一郎	"8・9・30 ～"12・3・31	八条村
根岸五郎	"8・9・30 ～"12・3・31	新田村
三谷利八	"8・9・30 ～"12・3・31	奈佐村
北村安右衛門	"8・9・30 ～"12・3・31	田鶴野村
水島仁平治	"8・9・30 ～"12・3・31	中筋村
坂井虎之助	"8・10・23 ～"12・3・31	豊岡町

注 出石郡会議員は不詳

図・表・写真一覧

〈口 絵〉

九日市上空から見た豊岡市街全景	達徳会館
豊岡県庁舎	北但大震災で炎上する豊岡の町並み
晩年の京極高厚肖像	同じく港西地区
田中光儀肖像	昭和2年完工した豊岡町新庁舎
初期の豊岡小学校校舎	円山川改修計画測量図（明治中期以
豊岡県師範学校校舎	前のもの）
豊岡町役場	終戦後の豊岡市街航空写真
城崎郡公会堂	最近の豊岡市街航空写真
開設当初の豊岡駅	

〈巻末折り込み〉

- (表) 明治以降・市域内行政区画変遷表
 (図) 豊岡県管内図・付戸長役場所在
 (図) 豊岡市域内・旧町村別区域図

〈見開き〉

津田青楓画「山高水長」（引野・赤木一彦氏蔵）
 （大正8年・宵田町由利三左衛門家に来泊し、円山川と対岸の立野村を写す）。

図

番号	図	ページ
1	豊岡藩邸図	7
2	戸長役場・郡役所印影例	56
3	明治16年2月豊岡町認定道路図	126
4	公立豊岡中学校平面図	225
5	花くるす紋	256
6	明治13年（1880）ごろの陸軍の 制服	276
7	人力車立場を兼ねる旅宿の広告	294
8	但丹鉄道計画路線図	296
9	新築間もない豊岡警察署	318
10	円山川改修計画図	334
11	元禄15年（1702）町並みの発展 図	376
12	明治20年（1887）ごろ（同上）	376
13	大正10年（1921）ごろ（同上）	376
14	昭和10年（1935）ごろ（同上）	376
15	現況（1981）（同上）	377
16	市章	594
17	豊岡市歌	594
18	市域の拡張	604
19	新住居表示施行前の大字名と区	

画	744	23 豊岡市円山川東岸部地図	804
20 新住居表示による町名と区画	745	24 祝儀・不祝儀の膳	815
21 豊岡駅前再開発のマスタープラン	765	25 母屋の間取り(大正期・河谷)	818
22 力餅連合会商標	784	26 ユルリの席	819
		27 三三九度の盃の順番と座席	843

表

番号	表	ページ
1	階級と職制	8
2	新設・廃止・兼務の職制	8
3	職制	9
4	久美浜県官職俸給表	14
5	職制 明治3年4月	20
6	職制 明治3年12月	20
7	豊岡藩御取稼高	21
8	明治2年雑税内訳	22
9	豊岡藩士人数・俸禄表	23
10	明治4年豊岡藩庁予算試表	23
11	文久2年以降の藩札発行高	24
12	豊岡藩藩札明細	24
13	明治3年5月17日任命の豊岡町 町方役人	28
14	明治4年3月中・少郷長	29
15	明治4年8月17日, 城崎郡戸 長・副戸長表(市内)	30
16	豊岡県管内主要旧城下表	33
17	豊岡県官職表	39
18	明治7年7月当時の区戸長	43
19	町村制によって生まれた新町村 (市内)	60
20	但馬自由民権運動家一覧	70
21	明治10年の芸・舞妓数	73
22	県会議員選挙有権者数	77
23	明治40年9月30日郡会議員選挙 立候補者・当選者	79
24	明治40年9月県会議員選挙結果 (城崎郡選挙区)	80
25	明治42年9月15日現在, 城崎郡 県会議員選挙有権者数	80
26	明治44年9月25日県会議員選挙 得票数	81
27	明治44年郡会議員選挙当選者	81
28	家禄奉還資本金明細	88
29	明治26年7月財産引渡目録	94
30	宝林銀行積立金の变化	95
31	宝林銀行貸借対照表	96
32	拡産社の推移	98
33	藩札引替日・場所	106
34	豊田町入居者調べ	110
35	有力商人分布	110
36	明治11年の渡船	121
37	その他の渡し	122
38	『明治25年城崎郡統計概表』に よる市内の橋梁	123
39	明治11年の有銭橋	123
図3	付表 (1)道路 (2)橋梁 (3)築堤	127
40	工事費見込み収入表	128
41	城崎郡認定郡道(関連分)	129
42	瀬戸村回船出身地別乗組員数	133

43 明治5年瀬戸村回船一覧……………	133	70 兵庫県下中学校教員・生徒数…	224
44 瀬戸村回船年齢層別乗組員数…	133	71 公立豊岡中学校教員・生徒数表	225
45 『明治25年城崎郡統計概要』に よる津居山港出入船舶……………	134	72 明治17年度(17年9月～18年7 月)公立豊岡中学校予算額…………	226
46 船問屋清水屋(浜田湊)扱いの 地元船名……………	134	73 宝林義塾教員生徒数……………	227
47 津居山回船による仕入れ関係な どの一例……………	135	74 明治15年2月制定城崎郡小学校 設置区域表……………	229
48 郵便定日……………	141	75 明治19年12月制定市域内小学校 設置区域表……………	231
49 郵料……………	142	76 豊岡高等小学校地区別生徒数…	232
50 明治22年地価修正新旧比較表…	178	77 明治24年度豊岡高等小学校生徒 数……………	233
51 地価算出表 豊岡県第1大区 (城崎郡)の場合……………	179	78 県下高等小学校推移……………	233
52 国の税収中に地租の占める割合	179	79 市域内小学校の明治後期(25年 以降)建設状況……………	236
53 豊岡県内生糸生産高……………	185	80 創立当時の豊岡幼稚園概要…	237
54 屠牛頭数税金覚帳……………	191	81 私立窈淑女学校概要……………	243
55 明治7年1月調豊岡県管内小学 校数……………	199	82 奉祀祭神名変遷の一例…………	249
56 豊岡町内就学男女表……………	200	83 明治7年12月「年中祭式節手続 書」……………	252
57 豊岡町内等級別生徒数……………	200	84 南条信次郎をめぐる系譜…………	256
58 明治7年豊岡町小学校教員表…	200	85 医療料金の比較……………	259
59 明治7年(1月～12月)豊岡町 小学校出納表……………	202	86 明治8年・年間種痘済人数届出 一覧表……………	260
60 第一大区内支校一覧表……………	204	87 『明治25年城崎郡統計概要』に よる種痘実況……………	262
61 明治7年制定学区区分表…	205, 206	88 豊岡警察署(本署)管内伝染病 発生表……………	263
62 (1)『文部省年報』小学校一覧	208, 209	89 豊岡病院職員数……………	266
63 但馬内校舎種類別状況……………	216	90 明治17年度公立豊岡病院収支予 算書……………	267
64 初期就学率比較……………	217	91 明治34年度田鶴野村延旅客数…	292
65 明治初期地区別学校数及び教員 数……………	219	92 明治36年12月現在, 田鶴野村車 馬船舶表……………	292
66 但馬の規模別学校数及び教員数	219	93 明治44年4月20日現在, 田鶴野	
67 豊岡県の学費出納(明治7年)	219		
68 但馬国小学校授業料月額…………	220		
69 豊岡県師範学校徴集生徒人員割 表……………	222		

村車馬船舶表……………	292	116 豊岡町特別税戸数割制限外課税 調書……………	406
94 大石繁正・旅行日程……………	295	117 豊岡町の決算（大正14, 15～昭 和12）……………	412
95 山陰縦貫鉄道敷設に関する郡協 議費収支決算……………	298	118 港村の決算(大正14, 15～昭和11)	414
96 豊岡警察署（本部）の陣容……………	317	119 総選挙における豊岡市域政党派 別得票数……………	432
97 豊岡警察署巡査配分数……………	317	120 柳行李製造高……………	436
98 明治15年1月1日施行の裁判所 構成……………	318	121 海外博覧会と豊岡杞柳製品出品	436
99 幕末期の豊岡領の正租高……………	326	122 兵庫県・城崎郡の杞柳製品製造 の推移……………	438
100 二等道路西京往還土手普請費賦 課表……………	328	123 城崎郡と豊岡町の杞柳製品製造 の対比……………	439
101 円山川改修工事・傭人人夫職工 出役状態調……………	335	124 杞柳製品創意工夫年表(その一)	439
102 津居山港湾工事町村協議費予算 表……………	337	125 豊岡の柳行李及び鞆輸出額……………	440
103 昭和以降の市内簡易水道事業……………	344	126 豊岡町近辺の工場……………	443
104 上水道拡張の推移……………	345	127 城崎郡の杞柳製産の推移……………	444
105 但馬ガス株式会社概況……………	349	128 明治43年杞柳収穫高……………	445
106 当地区都市ガス普及の変遷……………	349	129 大正10年豊岡町の杞柳製品製造 高と戸数……………	446
107 豊岡町の決算（大正6～13）……………	354	130 神戸港輸出重要品（柳行李及び 鞆）数量及び価額……………	447
108 大正9年度豊岡町歳出決算中の 主な増加項目……………	354	131 但馬杞柳製品累年移出表……………	447
109 港村の決算（大正6～13）……………	356	132 但馬杞柳製品同業組合製産累年 表……………	447
110 北但大震災被災表……………	358	133 杞柳製品創意工夫年表(その二)	448
111 関連地区被害表……………	361	134 豊岡町の籐バスケット製造場・ 職工・価額の変化……………	448
112 城崎郡港村田結地区北但大震災 記録概要……………	362	135 但馬合同銀行合併前四銀行営業 成績及び役員……………	452
113 (1)耕地整理で消えた字名……………	374	136 銀行系統表……………	453
〃 (2)整理区域内で新たに編成され た地名……………	374	137 豊岡町で職工5人以上を使用す る工場……………	458
〃 (3)整理区域内外で残された旧町 内の大字名……………	374	138 豊岡町で5人以上を使用する会 社……………	459
114 豊岡立憲青年会の幹部……………	381		
115 昭和2年度豊岡町予算中主な増 加項目……………	406		

139 昭和17年度豊岡町の商業組合と 工業組合……………	460	164 少年犯罪数……………	586
140 中郷の鮭鱒漁獲高と収支結果…	481	165 豊岡市内の自動車類の増加状況	586
141 豊岡市域の大地主一覽……………	484	166 消防力の現状……………	588
142 奈佐村の耕地管理組合……………	490	167 合併試算のグループ明細……………	598
143 早い時期の耕地整理……………	491	168 神美村両地区の大勢……………	603
144 大正・昭和（戦前）期の耕地整 理事業……………	493	169 上佐野・納屋の人口・世帯数…	604
145 市域内の牛飼育頭数・戸数の変 遷（昭和前期）……………	499	170 生活保護・年次別保護人員・保 護費支出状況……………	607
146 兵庫県・但馬の牛飼育頭数の変 遷……………	500	171 豊岡市善意銀行預託・払出額…	608
147 産業組合の系譜……………	504	172 豊岡市の共同募金実績表……………	608
148 昭和不況期の米と藪の単位当た り価格変化……………	506	173 豊岡市域内の農民組合……………	620
149 奈佐村民貯金高及負債高調べ…	510	174 旧町村別農地等買収実績表……………	624
150 兵庫県公立中学校入学競争率推 移……………	525	175 経営耕地面積と農地買収面積の 比較……………	625
151 県立豊岡中学校入学競争率の状 況……………	525	176 農地改革による自作・小作地面 積の変化……………	625
152 市域内小学校高等科設置状況…	532	177 農地解放者一覽表……………	626, 627
153 市域内各幼稚園沿革概要……………	533	178 豊岡市内農家戸数及び経営耕地 面積……………	632
154 港村東部青年夜学会の状況…	542	179 戦後の土地改良事業……………	636, 637
155 市域内青年夜学会状況……………	543	180 豊岡市内の養蚕実績……………	645
156 城崎郡内青年会調査……………	550	181 豊岡市域内年次別家畜・ニワト リ類飼養状況……………	647
157 昭和18年度城崎青年学校生徒数	558	182 豊岡市林業概況……………	648
158 昭和18年度西部青年学校生徒数	559	183 豊岡の主要物産製産額……………	658
159 同校の教授及び訓練日程……………	559	184 豊岡町の工産品製産高……………	660
160 戦争末期の生徒数推移……………	562	185 昭和27年豊岡市主要物産製産額	661
161 公立豊岡病院組合分賦金及び会 議員定員数……………	575	186 コリヤナギ栽培面積および推定 実収高表……………	662
162 公立豊岡病院組合歳入出予算…	575	187 杞柳製品・鞆嚢製産額推移……………	663
163 昭和21年～22年の各種選挙にお ける豊岡町の有権者数・投票 者・投票率……………	582	188 豊岡市商業調査結果……………	665
		189 豊岡市製造工業中分類別工場 数・従業員数……………	665
		190 杞柳製品工場数・従業員数・製 産高推移……………	667

191 鞆囊工場数・従業員数・製産高 推移……………	667	216 青年学級開設概要……………	713
192 杞柳製品別製産高……………	668	217 青年教室開設状況(昭和55年)	714
193 鞆囊製品別製産高……………	668	218 青年教室開設状況(昭和60年)	714
194 豊岡鞆囊産業の推移……………	669	219 高齢者教室……………	715
195 豊岡市の工業(製造業)の推移	671	220 豊岡市立公民館一覧……………	716
196 豊岡市の商業の推移……………	672	221 その他の社会教育施設……………	716
197 市町別産業大分類別(県統計) による豊岡市の事業所の構成比	673	222 豊岡市体育協会種目別協会……………	718
198 商店数・従業者数・年間販売額 増加率の推移……………	673	223 主な豊岡市体育関係恒例行事…	719
199 豊岡市の産業別就業人口の推移	674	224 社会体育施設の状況……………	719
200 豊岡市の工場誘致の状況……………	674	225 豊岡市体育協会役員表……………	719
201 市内の産業中分類別構成比……………	675	226 近代以降の廃絶寺院……………	721
202 市内の鞆卸売業の地位……………	676	227 近代以降の創設寺院……………	721
203 消費者物価調査品目別価格……………	677	228 但馬地区伝染病患者収容状況…	740
204 豊岡市の鞆製品の製産と輸出…	678	229 山陰線の急行運行開始表……………	741
205 メーカー外注依存比率……………	678	230 都市計画公園……………	748
206 消費者物価指数……………	679	231 都市計画緑地……………	748
207 豊岡鞆輸出数量・金額……………	679	232 豊岡土木事務所所管道路表……………	751
208 鞆・柳製品出荷額……………	680	233 都市計画道路……………	752
209 豊岡特産業(鞆・柳製品)の規 模……………	681	234 年代別, 市域内旧町村別人口推 移……………	761
210 外注戸数及び外注人数……………	681	235 豊岡市の産業別人口の推移……………	762
211 鞆・柳製品産業従業者数……………	681	236 五荘地区集落別世帯数, 人口の 推移……………	763
212 豊岡の産業別製産所得……………	682	237 65歳以上人口指数表……………	763
213 市内観光地別入込客数の年度別 推移……………	684	238 豊岡藩費遊学生徒表……………	770
214 豊岡市内特殊学級数……………	706	239 下村家・久保田家家系……………	771
215 兵庫県中学校卒業者の高校進学 状況……………	709	240 岸田俊子の主な著作・伝記……………	803
		241 大人の服装……………	808
		242 「かわりもの」を食べる日 ……	813
		243 大正期の八社宮の生業(農事暦)	828
		244 大正期の八社宮の年中行事……………	830

写真

番号	写真	ページ	の碑	ページ	
1	豊岡藩印	8	25	和田垣信の国会開設の檄文	66
2	舟木克己の豊岡藩権大参事任命 辞令	12	26	町章募集記事と選考発表記事	72
3	久美浜県商法会所の銭札	15	27	神武山から望んだ豊岡町の町並	74
4	久美浜県庁舎棟札	15	28	富田仙助の選挙運動用出石焼徳 利	78
5	久美浜県の津居山開港に際し建 設した商法館出入掛屋役辞令	16	29	宵田橋を渡る大隈重信一行	79
6	久美浜県の城崎郡大庄屋辞令	17	30	仁木伊兵衛が写していた城崎郡 町村連合会紛議の『神戸新報』 記事	82
7	明治3年の飢饉にあたり窮民扶 助に30両を寄附した赤石村忠右 衛門に対する久美浜県の表彰状	18	31	日露講和問題但馬国民大会を告 げる新聞記事	83
8	明治4年出石藩少郷長(穴見谷 地区)補助辞令	30	32	明治末期の政談演説会	84
9	豊岡県諸掛印鑑	35	33	明治27年の政談演説会傍聴券	85
10	豊岡県印	35	34	町長排斥問題に触れた新聞記事	85
11	田中光儀の久美浜県大参事辞令	36	35	元豊岡藩士久保田益見の家禄奉 還認可書	89
12	豊岡県庁正門	36	36	金禄公債	89
13	再び久美浜に移された元豊岡県 庁舎	36	37	金禄公債の買受証	92
14	久美浜県庁舎造営棟梁に対する 賞状	37	38	奥田勘三郎に与えた豊岡県から の豊田町用掛辞令	108
15	明治6年の豊岡県租税課の納税 請取通帳	39	39	生糸改元会社辞令	108
16	田中光儀の豊岡県参事任命記事	40	40	豊田町開発前の藩地	109
17	豊岡県初代県令小松彰	40	41	明治30年ごろの豊田町の絵図	109
18	豊岡県の戸長辞令(明治7年)	42	42	柳行李卸商の広告	113
19	豊岡県庁商業鑑札	45	43	豊岡組柳行李商組合員証	116
20	豊岡県権令三吉周亮	47	44	豊岡銀行の広告	117
21	太政官札・民部省札	50	45	宝通銀行の広告	119
22	奈佐村道路元標(奈佐公民館)	58	46	今森村の渡船鑑札	122
23	瀧田清兵衛	59	47	明治末年の船町渡し	122
24	強成社が建てた西南戦争戦死者 の碑		48	堀川橋と小田井イト、千体地藏 堂 イトの白帆や屋形舟	124
			49	天神橋供養塔	124

50 明治37年の京口橋……………	125	80 明治時代の光行寺と寺中4ヶ寺	201
51 立野粗橋（大正初期）……………	125	81 聯区小学校修了証……………	207
52 明治期の宵田橋……………	125	82 中谷学校授業生辞令……………	210
53 内国通運会社の広告……………	131	83 小田井学校校費録……………	210
54 内国通運会社の送り状……………	132	84 洪水の損害を伝える学校日誌…	211
55 日本型帆船で賑う明治末年の津 居山港……………	132	85 明治期の景小学校……………	212
56 真力丸の出帆免状……………	136, 137	86 卒業記念写真(旭学校。勝妙寺)	213
57 豊岡県勸業所の船税請取証…	138	87 三宅小学校……………	215
58 新築後1年の豊岡郵便局舎…	142	88 下等小学教則「習業時間割」…	217
59 マダイ漁「鯛縄」一式……………	148	89 豊岡小学校初代校長神矢肅一…	218
60 鯛立釣教師井上長治・烏賊釣教 師田中長平の記念碑……………	152	90 三宅小学校卒業証書……………	220
61 改良漁船の完成を祝う津居山村	153	91 城崎美含豊岡伝習所卒業証書…	223
62 明治期の漁業組合員証焼印…	155	92 宝林義塾修了証……………	227
63 現在の新川用水……………	162	93 八条尋常高等小学校……………	234
64 蓼川堰……………	165	94 三坂地区での豊岡中学校地造成 奉仕団……………	240
65 蓼川水路新設石灯笼奉納標…	167	95 創立時の兵庫県豊岡尋常中學校 校舎……………	241
66 三坂地区の水路記念碑と蓼川水 路改修碑……………	168	96 私立窈淑女学校第一回卒業生…	242
67 蓼川水路碑（土測）……………	168	97 私立窈淑女学校修業証書…	243
68 明治5～7年の上陰村仮免状…	170	98 創立時の城崎郡立高等女学校…	244
69 豊岡県の地券……………	171	99 城崎郡立高等女学校の体操風景	245
70 吉井村地券台帳……………	172	100 ミシンによる裁縫実習をする城 崎郡立高女生……………	246
71 兵庫県の「明治8年」地券…	177	101 運動場の城崎郡立高女生…	246
72 『城崎・美含郡各町村連合農談 会要録』の表紙……………	181	102 森尾の阿牟加神社社標……………	250
73 豊岡生糸改元会社の決算書…	185	103 氏子札……………	253
74 蚕種製造鑑札……………	186	104 キリシタン禁制札……………	254
75 城崎郡蚕糸業組合証……………	187	105 城崎郡医師組合の料金表…	258
76 養蚕伝習所・蚕種製造販売所の 広告……………	188	106 種痘済証……………	261
77 牛乳搾取販売所の広告……………	191	107 豊岡県の病院御用掛任命書…	265
78 明治2年の三丹執政会議議事録	194	108 明治30年ごろの公立豊岡病院の 職員……………	269
79 私塾観瀾堂（小田井町）規約…	195	109 明治40年ごろの公立豊岡病院…	269
		110 小林資敬の西南の役戦闘日誌…	275

111 小林資敬……………	276	県神社……………	335
112 日露戦争当時の陸軍軍服……………	280	143 架設中の円山大橋……………	336
113 晩年の木下弥八郎……………	287	144 円山川改修之碑……………	336
114 山陽鉄道割引券……………	291	145 豊岡電気株式会社の発電機……………	339
115 人力車……………	293	146 完成時の豊岡電気株式会社発電 所……………	340
116 小田井イト（明治末年）……………	294	147 二見水源池の中江種造……………	342
117 中江煉瓦製造所……………	299	148 神武山上に完成した配水池……………	343
118 開業当初の豊岡駅……………	299	149 水道竣工祭の花電車……………	345
119 豊岡駅開設記念絵ハガキ……………	299	150 竣工時の中江種造銅像……………	347
120 城崎町までの開通のときの汽車 時間表……………	300	151 ガスタンク基礎工事……………	348
121 小祥忌奉納額……………	303	152 操業当初の豊岡ガス会社……………	348
122 『木兎』第一号など……………	306	153 町長由利三左衛門と助役伊地智 三郎右衛門……………	352
123 三宅焼の“仕見焼”茶碗……………	308	154 豊岡小学校校庭の避難民……………	359
124 但馬煉瓦製造株式会社仮株券……………	308	155 田結地区の震災記念碑……………	359
125 三宅焼の釉切れ製品……………	309	156 北但大震災で横転した円山川改 修の土砂運搬用機関車……………	359
126 三宅焼青磁桜花透し建水……………	309	157 復興中の宵田町通り……………	360
127 後期三宅焼の製品……………	310	158 被災者用バラック……………	360
128 「沢田やき」の広告……………	311	159 豊岡町庁舎用の急造バラック……………	360
129 豊山焼染付遊舟図壺……………	312	160 震災後・応急に新築された郵便 局……………	361
130 豊山焼のトックリ窯……………	312	161 復興中の豊岡駅前通り……………	365
131 豊岡市立郷土資料館陶磁展示室……………	312	162 完成間近い豊岡町役場庁舎……………	367
132 「豊岡県」銘入りの拳銃……………	315	163 北但大震災前の豊岡町絵図……………	368
133 宵田橋畔の豊岡警察署……………	318	164 大正期の小島地区……………	368
134 豊岡区裁判所……………	319	165 大正期の日和山風景……………	369
135 城崎・出石両郡長の調停で紛糾 を解いた大保恵堤防の関係者……………	327	166 神武山上から見た豊岡町北東部……………	370
136 堤橋の堤上を流れ出る洪水……………	329	167 豊岡小学校から豊岡町南東を望 む……………	371
137 堤橋（明治40年5月4日）……………	330	168 耕地整理前の整理地区……………	372
138 円山川改修工事に活躍した200 トン掘削機……………	334	169 耕地整理後の整理地区……………	373
139 円山川改修工事一景……………	334	170 礼装の斎藤隆夫代議士……………	380
140 円山川堀川橋一帯（改修前）……………	335	171 若宮貞夫胸像……………	385
141 円山川堀川橋一帯（改修後）……………	335		
142 円山川改修で移転寸前の小田井			

172 米騒動があったところの小田井…	388	198 衣料切符…	461
173 「豊岡米騒動」の判決原本 ……	389	199 豊岡同業社のポスター…	464
174 神武山から見た震災後の復旧し た豊岡町の町並み…	398	200 立石の神美鉱山…	465
175 労働農民党のバッチ…	402	201 八佐鉱山の宿泊所と事務所…	466
176 労働農民党県支部聯合会の決議	402	202 一本釣り漁船…	468
177 全日本無産青年同盟のバッチ…	409	203 戦時中の津居山港…	477
178 茶房「ロロ」…	410	204 赤木邸…	485
179 田鶴野村役場…	424	205 佐川邸…	486
180 三江村と豊岡町の合併記念碑…	424	206・207 千歯と改良足踏脱穀機によ る脱穀…	492
181 伊地智三郎右衛門無罪判決後の 激励会…	426	208 昭和初期の田植風景…	492
182 久保町地蔵盆の造り物「選挙肅 正」…	433	209 「千載済農」碑 ……	496
183 柳行李商鑑札…	436	210 京町の神武山麓に残る城崎郡養 蚕同業組合跡…	497
184 軍用将校行李…	437	211 大正期の斎藤製糸工場…	497
185 柳行李商豊岡同業組合定款…	437	212 今も残る牛による田かき作業…	500
186 第一回城崎郡物産共進会受賞者 一覧表…	438	213 第三回兵庫県稲作改良競技会…	501
187 鞆型柳行李…	440	214 平尾会社諸帳簿…	502
188 大正14年パリで開かれた現代美 術工芸万国博の褒状…	440	215 奈佐信用購買販売利用組合…	503
189 大正期の作花柳籠工場…	441	216 経済更生計画書…	508
190 大正期の杞柳製品の問屋…	442	217 経済更生計画特別助成村に指定 された奈佐村の宣誓書…	509
191 明治期のカタログにある豊岡の 籐製品…	442	218 農産物価格の低落と農家の惨状 を伝える新聞記事…	510
192 柳で作った花籠…	444	219 田鶴野地区の忠魂碑など…	512
193 第1回杞柳及び籐製品意匠競技 会…	449	220 勲章と勲記…	512
194 初期のファイバー鞆…	449	221 昭和15年の国防思想普及大展覽 会…	513
195 柳条製飯行李…	450	222 出品物の一つ「爆弾三勇士」…	513
196 「商工会議所の設立を望む」社 説…	455	223 山王山上に完成した忠霊塔…	514
197 三越神戸支店の出張販売に対抗 した豊岡百貨連盟会場…	456	224 戦死者慰霊式場に向かう行列…	514
		225 豊岡高女生による勤勞奉仕の人 文字…	516
		226 光雲寺（宮井地区）の梵鐘応召	516
		227 旧城崎郡役所跡に開設された北	

但地方事務所……………	517	250 昭和初期のブラジルのコーヒー	
228 豊岡町民が寄贈した報国1410号	518	園と日本人住宅……………	570
229 新田小学校に設けられた軍事研		251 大正11年の公立豊岡病院……………	573
究所……………	518	252 台風で浸水した立野の豊岡病院	573
230 岩本隆氏の遺品、千人針と署名		253 設置当初の豊岡町警察署・公安	
入り日章旗……………	520	委員と署員……………	584
231 岡田芳雄氏遺品の奉公袋……………	520	254 豊岡市消防団出初式における放	
232 遺骨の代わりに贈られた南洋の		水試験……………	587
貝殻と珊瑚……………	522	255 市制施行申請書……………	591
233 移転時の豊岡商工実修学校独立		256 市制施行時の市役所……………	593
校舎……………	527	257 豊岡市制祝賀の市職員行列……………	593
234 開校時の組立立豊岡農業学校…	529	258 初代豊岡市長佐川辰夫……………	594
235 震災で倒壊した港西小学校校舎	534	259 豊岡市歌発表会の新聞記事……………	595
236 震災で正門が崩れた豊岡小学		260 豊岡市合併を訴える三地域の陳	
本館……………	534	情団……………	599
237 震災後の野外授業（山王山で）	535	261 豊岡市への神美村合併祝賀行列	602
238 救護隊本部が置かれた県立豊岡		262 開設当時の豊陵保育園のこども	
中学校……………	535	たち……………	606
239 修学旅行から帰って北但大震災		263 豊岡老人ホームで生花を楽しむ	
を知り呆然とする豊岡高女生…	536	老人たち……………	607
240 模擬戦闘訓練（昭和初期・県立		264 特別老人養護施設「こうのと	
豊岡中学校）……………	537	荘」……………	608
241 豊岡小学校の二宮尊徳像……………	538	265 福祉会館……………	609
242 田鶴野村青年団赤石支部旗……………	544	266 隣保館……………	611
243 野球大会優勝の豊岡青年団……………	549	267 日農但馬連合協議会の看板……………	616
244 昭和16年竣工した県立豊岡中学		268 被買収農地の給付金にあてた国	
校の奉安殿……………	554	債……………	629
245 勤労報国隊腕章……………	555	269 伊賀谷高原開拓地の現況……………	629
246 創部当時のグライダー（県立豊		270 農業夏期大学講座「蔬菜栽培に	
岡中学校）……………	555	ついて」……………	631
247 円山川堤外地の開墾……………	556	271 豊岡農協のカントリーエレベ	
248 薪作り奉仕の豊岡第二国民学校		ーター……………	635
高等科児童……………	556	272 新農業構造改善事業で整備され	
249 夢堂・麦舎・盃漣・錦風洞・芹		た加陽地区……………	638
舎らの寄せ書き……………	565	273 新円切替えにともない証紙貼付	

した拾円札と貯金通帳……………	640	298 大牟光の道……………	723
274 初秋蚕のこも囲い屋外糸桑育 （気比。昭和34年）……………	643	299 天理教……………	724
275 昭和58年秋の2歳牛共進会風景	646	300 黒住教……………	725
276 江野地区の造林風景……………	647	301 日本基督教団……………	725
277 磯漁用の舟と漁具……………	650	302 カトリック教会……………	725
278 磯漁用漁具……………	650	303 福音教会……………	728
279 集魚灯を持つ近代漁船……………	651	304 末日聖徒イエスキリスト教会…	728
280 北兵庫ドック……………	654	305 創価学会……………	728
281 各種のイカ用擬似針……………	655	306 専修念仏の小川独笑碑……………	728
282 但馬開発博覧会……………	666	307 立正佼成会……………	728
283 豊岡鞆会館……………	670	308 念法真教……………	728
284 鞆団地……………	676	309 再刊『木兎』……………	731
285 昭和60年4月、福田地区に完成 した豊岡総合卸売市場の全景…	683	310 京極杞陽……………	734
286 北但海岸道路建設における瀬 戸・田久日間の大爆破作業…	684	311 西村蓼花作品の色紙と句集…	735
287 昭和40年ごろの但馬労働会館…	691	312 短歌雑誌『雪線』『北雲』『但丹 歌人』……………	735
288 昭和35年5月1日の但馬地区統 一メーデー……………	692	313 栄町団地……………	749
289 旧高女校舎を転用した豊岡南中 学校……………	697	314 建設中の高層市営住宅……………	749
290 豊岡市民グラウンドから臨んだ 近大付属豊岡女子高校と同短大 部……………	708	315 一日市下水処理場……………	750
291 世耕総長から上田副手あての手 紙……………	708	316 森尾橋のたもとに立つ道標…	753
292 初の近畿大学付属豊岡女子高等 学校入学式……………	709	317 工事中の蓼川大橋の橋脚…	753
293 県立豊岡南高等学校……………	710	318 出石街道松暎……………	754
294 豊岡市中央公園体育館完成予想 図……………	718	319 旧港大橋渡り初め式……………	756
295 倉見地区にあった大本の神殿…	721	320 本流であったころ（大正期）の 円山川……………	759
296 神道神導教……………	723	321 公園化が完成した市民会館前の 廃川部……………	759
297 金光教……………	723	322 ホテル・サンルートから町並み を見る……………	764
		323 第2代豊岡市長橋本省三……………	765
		324 現豊岡市長平尾源太夫……………	765
		325 晩年の久保田周輔……………	772
		326 猪子 清……………	773
		327 堀田瑞松……………	775
		328 堀田瑞松の専売特許願と許可証	775

329 晩年の吉村寅太郎……………	776	357 木下 保……………	795
330 浜尾新 慶応義塾入門姓名録…	776	358 柰田たけを……………	796
331 吉村寅太郎 慶応義塾入門姓名 録……………	776	359 大江保直……………	796
332 神矢肅一……………	777	360 加藤美代三……………	797
333 和田垣謙三……………	778	361 柰田たけをの作品「御阿礼」…	797
334 沖野忠雄……………	779	362 森田子龍の作品「舞(まう)」…	798
335 浜尾 新……………	780	363 森田子龍……………	798
336 森垣亀一郎……………	781	364 加藤美代三画・養源寺山門天井 画……………	798
337 久保田譲……………	782	365 宮中装束の岸田俊子……………	800
338 河本重次郎……………	783	366 中島湘煙時代の俊子……………	801
339 神月徹宗……………	783	367 俊子の書「帰去来辞」……………	803
340 下村三四吉……………	784	368 冬衣の娘……………	807
341 一瀬彙吉……………	785	369 手摺……………	810
342 猪子止戈之助……………	786	370 箱膳……………	811
343 秦 慧昭……………	786	371 大正期の稚児行列……………	814
344 岡本梁松……………	787	372 三柱神社跡……………	823
345 木村 発……………	788	373 現在の八社宮神社……………	826
346 大橋光吉……………	788	374 改良型モミ選別機(唐箕) ……	827
347 若宮貞夫……………	789	375 千歯……………	827
348 古島一雄……………	790	376 大正期の刈入れ……………	827
349 紫安新九郎の胸像……………	791	377 つくよねさんの鈴の緒……………	834
350 竹中政一……………	791	378 久々比神社……………	835
351 舟越楫四郎……………	792	379 明治後期の一家……………	836
352 日下義禪……………	792	380 大正初期の三江小学校卒業生…	837
353 赤木正雄の銅像……………	793	381 祝樽……………	841
354 藤井重夫……………	794	382 惣和の膳(1)……………	845
355 小場瀬卓三……………	794	383 惣和の膳(2)……………	846
356 秦 慧玉……………	795		

豊岡市史 下巻

昭和62年3月1日 発行

編 集 豊岡市史編集委員会

発 行 豊 岡 市

印 刷 日本写真印刷株式会社
製 本 京都市中京区壬生花井町3
